元総社蒼海遺跡群

# 元総社小見内VII遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 3

前橋市埋蔵文化財発掘調查団

元総社蒼海遺跡群

# 元総社小見内VII遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

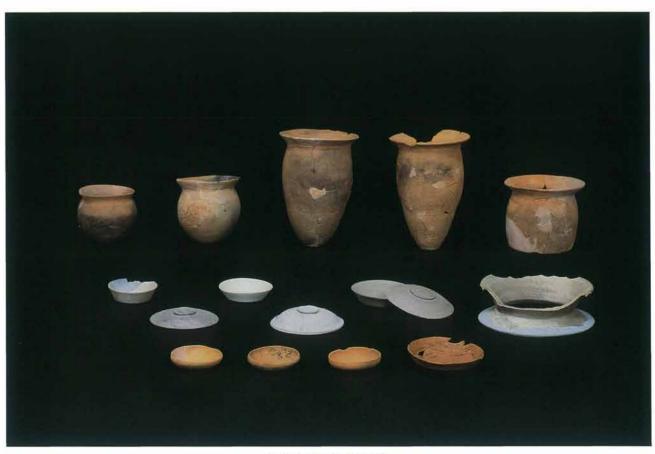
2 0 0 3

前橋市埋蔵文化財発掘調查団

1 調査区全景 (東から)



2 H-21号住居跡全景 (西から)



3 H-21号住居跡出土の遺物

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い 利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれ た美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室4古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東4名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度調査を行いました元総社小見内W遺跡は、前橋市の西部、推定国府域の北西、推定国分尼寺の南に位置します。検出された竪穴住居跡は、律令期初めの頃のものが多く、また、それらの竪穴住居跡を壊して作られた溝跡も検出されました。今回の調査では、国府と国分二寺を結ぶこの地域の律令期以前、律令期、律令期後の様子を知る上で貴重な資料を得ることができました。

最後に、本発掘調査実施にあたりご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、また、調査に従事されました作業員の皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念し、序といたします。

平成16年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 長 阿 部 明 雄

## 例 言

- 1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見内VII遺跡発掘調査報告書である。
- 2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調查場所群馬県前橋市元総社町地内

発掘調査期間 平成15年5月19日~平成15年9月9日

整理・報告書作成期間 平成15年9月10日~平成16年3月25日

発掘 · 整理担当者 近藤雅順·稲垣慎太郎(発掘調査係員)

- 4. 本書の原稿執筆・編集は近藤・稲垣が行った。
- 5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

石井春江・遠藤たか美・後藤進一・佐藤佳子・下境 弥・下境米治・鈴木民江・冨岡和子・冨澤理恵 内藤 旭・内藤よし・中島利夫・中山 昭・西山勝久・西山光彩・萩原和子・原田要三・峰岸あや子

6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財 保護課で保管されている。

## 凡例

- 1. 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 2. 挿図に国土地理院発行の 1/200,000地形図 (宇都宮、長野)、 1/25,000地形図 (前橋)、 1/2,500前橋市現形 図を使用した。
- 3. 本発掘調査の略称は、15A119である。
- 4. 本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J …縄文時代の竪穴住居跡 H … 古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡 B … 掘立柱建物跡 W … 溝跡 D … 土坑 P … ピット DB … 土坑墓

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構 全体図… 1 /200・ 1 /400 住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴・土坑墓… 1 /60・ 1 /120 竈… 1 /30

遺物 土器… 1/3 鉄器・鉄製品… 1/2 臼玉… 1/2 石斧・砥石… 1/3 多孔石… 1/4 古銭… 1/2 瓦… 1/4

- 6. 計測値については、( ) は現存値、[ ] は復元値を表す。
- 7. セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。

◎は締まり・粘性非常にあり、○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。

- 8. 遺構平面図の ---------- は切られるが存在する面を表す。
- 9. 遺構平面図の●は土器、▲は鉄器・鉄製品、□は石器・石製品の出土場所を表す。
- 10. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図 構 築 面…

遺物実測図 須恵器断面… 粘土 付着… 医透透

緑・灰釉陶器断面…[:::::: 緑・灰釉陶器表面…[いた]

ス ス 付 着…

11. 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間Bテフラ:供給火山=浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名二ッ岳伊香保テフラ:供給火山=榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名二ッ岳渋川テフラ:供給火山=榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石:供給火山=浅間山、4世紀前半~中葉)

## 目 次

		JF.	多 …			•••••	i
I	調査	に	至	る経	緯	•••••	
II	遺 跡 1		位 置跡			地	1
	2	歴	史	的	環	境	
III	調 査	方調			過 方	針	
	2	調	至	查	経	過	
IV	基	本	: J	層	序	•••••	9
V			と 穴		物 居		10
	$2^{\cdot}$	掘	立	柱列	建 物	跡	14
	3	溝				跡	14
	4	畠				跡	15
	5	土	坑	• 1	ピッ	٢	15
	6	グ	リッ	ド等	出土	遺物	15
VI	考				察	······	24

## 図 版

- 口絵1 調査区全景(東から)
  - 2 H-21号住居跡全景(西から)
  - 3 H-21号住居跡出土の遺物
- PL. 1 調査区全景、 $J-1 \cdot 2$ 、 $H-1 \sim 5$  号住居跡
  - 2 H-6~10号住居跡、H-10号住居跡遺物出土状況
  - 3 調査区中央部住居跡重複状況、H-11 · 12号住居跡
  - 4 H-13~19号住居跡
  - 5 H-20·21号住居跡、H-19·21号住居跡遺物出土状況
  - 6 H-22 23号住居跡、B-1号掘立柱建物跡、W-1 4号溝跡
  - 7 縄文土器・石器
  - 8 H-6~10号住居跡出土の遺物
  - 9 H-11・13~16・18・19号住居跡出土の遺物
  - 10 H-19~21号住居跡出土の遺物
  - 11 H-21・23住居跡、W-1号溝跡出土の遺物、臼玉、古銭、鉄器・鉄製品
  - 12 瓦

## 挿 図

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図
  - 2 周辺遺跡図
  - 3 元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
  - 4 基本層序
  - 5 時期別の竪穴住居跡配置図
  - 6 元総社小見内VII遺跡全体図
  - 7 J-1・2号住居跡
  - 8 H-1~5号住居跡
  - 9 H-6号住居跡
  - 10 H-7 · 8号住居跡
  - 11 H-9·10号住居跡
  - 12 H-11·12号住居跡
  - 13 H-13·14号住居跡
  - 14 H-15~17号住居跡
  - 15 H-18·19号住居跡
  - 16 H-20·21号住居跡
  - 17 H-22·23号住居跡
  - 18 B-1号掘立柱建物跡
  - 19 W-1・2・6号溝跡
  - 20 W-4号溝跡

- 21 D-1~16号土坑
- 22 D-17~22号土坑、DB-1 · 2号土坑墓、
  - P-1~7号ピット
- 23 P-8~35号ピット
- 24 P-36~66号ピット
- 25 J-1号住居跡、D-21号土坑出土の遺物
- 26 H-6号住居跡出土の遺物
- 27 H-6・7号住居跡出土の遺物
- 28 H-7~9号住居跡出土の遺物
- 29 H-10~13号住居跡出土の遺物
- 30 H-13~18号住居跡出土の遺物
- 31 H-19・20号住居跡出土の遺物 32 H-20・21号住居跡出土の遺物
- 33 H-21~23号住居跡出土の遺物
- 34 W-1号溝跡、グリッド出土の遺物
- 35 鉄器・鉄製品・臼玉・石器・石製品・古銭
- 36 瓦(1)
- 37 瓦(2)
- 38 瓦(3)

## 表

- Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
  - 2 竪穴住居跡一覧表
  - 3 溝跡計測表
  - 4 土坑・ピット計測表
  - 5 縄文時代出土土器観察表
  - 6 石器観察表
  - 7 奈良•平安時代出土土器観察表

- 8 鉄器・鉄製品観察表
- 9 石製品観察表
- 10 出土古銭一覧表
- 11 瓦観察表
- 12 時期別の遺構数
- 13 II期の竪穴住居跡の比較

## Ⅰ 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、4年目にあたる。本調査地は、 周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成15年4月9日付けで、前橋市長 萩 原 弥惣治より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。平成15年5月7日、調査依頼者である前橋市長 萩 原 弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月19日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見内VII遺跡」(遺跡コード:15A119)の「小見内」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「VII」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

## II 遺跡の位置と環境

#### 1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、 北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の 広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南へ約1kmの所に上野国総社神社があり、西へ約0.2kmの所には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスピルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

#### 2 歷史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山 王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされ る蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴 史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検 出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

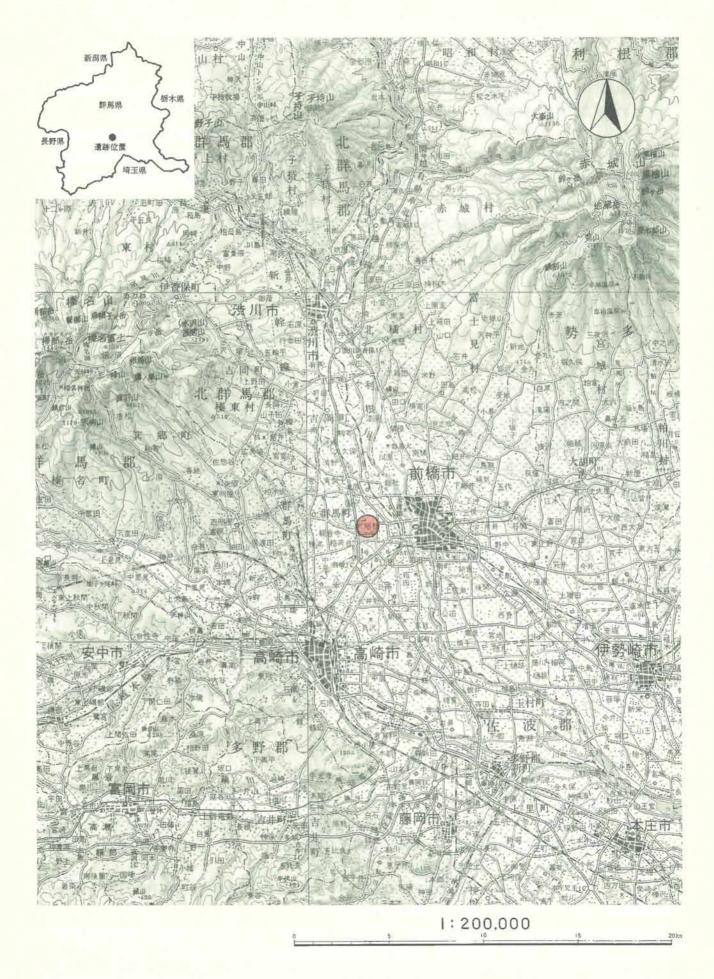


Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・ 文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国 府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された 関泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元総社小見内III遺跡や元総社小見内IV遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面硯、巡方(腰帯具)も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点に $N-64^\circ-E$ 方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

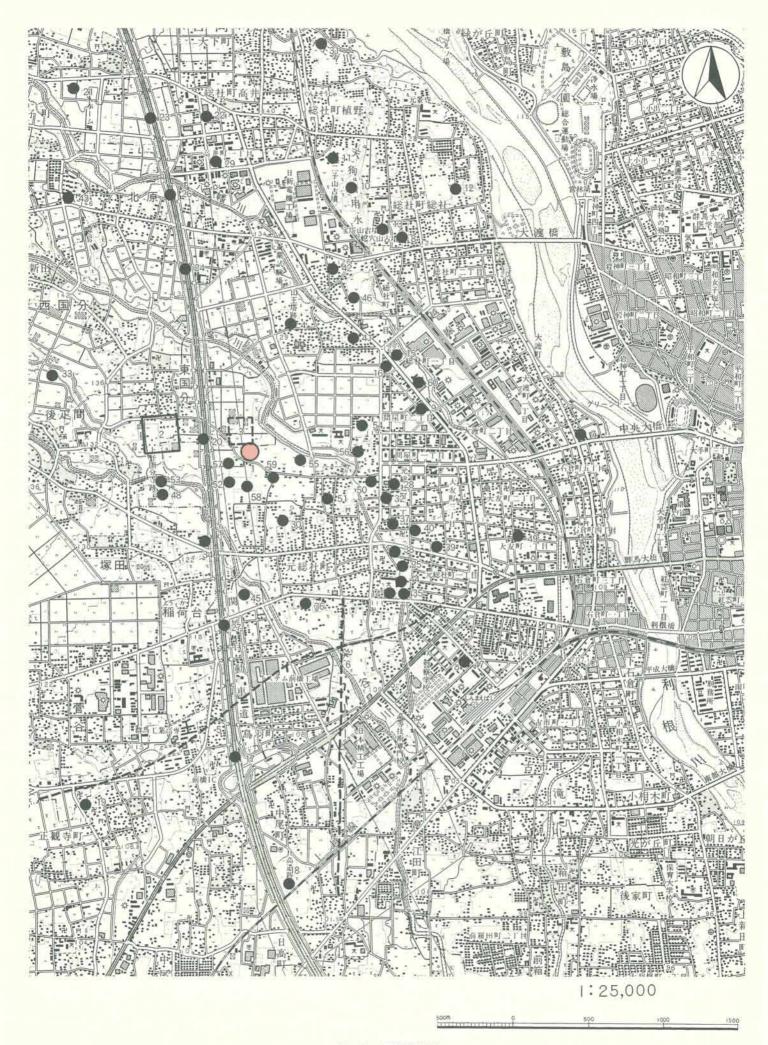


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

19	Tab. I	7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 -		※年代の( )は調査開始年度。
2				
1999   京、良・四角保   東南保   東京   東京   東京   東京   東京   東京   東京   東				
4 日正藤寺跡		上野国分寺跡(県教委)		
5 担迫 (建定)         日本 (建定)           7 工出古墳         1972 古 境: 方波 (8 2 20)           9 節に山古墳         1975 古 境: 方波 (8 2 20)           10 愛田山古墳         1988 古 須 田墳 (6 2 20)           11 88七二山 墳         末 園 金 須 田墳 (6 2 20)           12 後見山古墳         末 園 金 須 田方後円積 (6 2 22)           13 支配日古墳         木 副 金 石 須 田方後円積 (6 2 22)           15 反表を表現画跡         1992 名 近世地動脈 (7 2 3)           16 反素を表現画跡         1992 名 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				
日高速 (推定)			(1974)	古 墳:塔心礎、根巻石
7 王山上宮 1972 古 境:前方紀門域(6 C 中) 9 解心山古墳 1978 古 境:万度(8 C 6 M) 10 愛田山古墳 1988 古 墳:円墳(8 C 6 M) 11 設社二子山古墳 未 瀬 査 古 墳:円墳(7 C 70) 12 遠見山古墳 木 瀬 査 古 墳:円墳(7 C 70) 13 宮田山古墳 末 瀬 査 古 墳:円墳(7 C 70) 14 元曜七子位校匝道参 1962 年 づ 墳:円墳(7 C 70) 15 原果芸商を連絡 1966 規 文:住居勝 16 所養半高产産跡 1966 規 文:住居勝 17 中尾並修(事業団) 1976 元 元 党:河墳(7 C 末) 所屬 (7 C 末) 元 墳:万墳(7 C 末) 元 墳:石井 元 末) 元 章:石井 元 末) 元 墳:石井 元 末) 元 章:石井 元 末) 元 末				
8 性欠山占境	6	日高道(推定)		
1988   古 境 日 日 ( 2				古 墳:前方後円墳(6C中)
1996   古 境: 円墳 (7 C 初)   1996   古 境: 円墳 (7 C 初)   11 接社- 円山				古 墳:方墳(8C初)
11   接社一子山古墳   朱 瀬 査 古 墳:前方後門墳(6 C未~ 7 C初)     12   遠見山古墳   朱 瀬 査 古 墳: 方茂門町墳(5 C麦性)     13   宝塔山古墳   朱 瀬 査 古 墳: 方墳 (7 C末)     14   元総十少校校匝建修   1962   經 文: 住居修     15   産業部度理論   1965   經 文: 住居修     16   在東部の清晰   1976   宗良 平安: 北田縣 方形剛凍基、住居縣 木製典耕     17   中尾遠修 (事業団)   1977   宗良 平安: 北田縣 方形剛凍基、住居縣 木製典耕     18   日高遺終 (事業団)   1977   宗良 平安: 北田縣 方形剛凍基、住居縣     19   正報寺遺跡   1980	9	稲荷山古墳	1988	古
12   這現山古墳   末   瀬   五   5   5   5   5   2   2				古 墳:円墳(7C初)
13				古 墳:前方後円墳(6C末~7C初)
14				古墳:前方後円墳(5 C後半)
196   縄 文: 住居蜂   196   縄 文: 住居蜂   197   中尾遺跡 (事業団)   1976   余良・平安: 住居跡   1977   中尾遺跡 (事業団)   1977   京。 生 化居跡   万形円清蒸、住居跡   大神田原道跡 (事業団)   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1981   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1983   1979~1984   1979~1979   1979~197	13	宝塔山古墳		古 墳:方墳 (7 C末)
48			1962	
1976   1976   1976   1982   1977   1982   1979   1982   1982   1982   1983   1982   1983   1985   1988	15	産業道路東遺跡	1966	縄 文:住居跡
197   19	16	産業道路西遺跡		
19   19   19   19   19   19   19   19	17	中尾遺跡(事業団)	1976	
1979~1981	10	口草湯跡(東娄田)	1077	
19	10	口向退呦(尹来凶)	1977	
19				弥 生:住居跡
一	10	正観寺遺跡 I ~IV (宮崎市)	1979~1091	古」「墳:住居跡」
出野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	15	正院寸處所工 (同門刊)	1010 -1001	奈良・平安:住居跡
20				中 世:溝跡
20         上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)         1980~1983         古 墳:住居跡 銀立柱建物跡、海状遠横、道路状遺構 会良・平安:住居跡、溝跡 (本民 ) (本民				縄 文:住居跡、配石遺構
京良・平安:住居跡、振立柱建物跡   中世:掘立柱建物跡、清水遺構、道路状遺構   1980   奈良・平安:住居跡、満跡   22 中島道跡   1980   78段・平安:住居跡   38	_		1000	
中 世:掘立柱建物除、溝水遺構、道路状遺構   21	20	上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	1980~1983	古 填:任居跡
21   清里南部遺跡辞   1980   22   中島遺跡   1980   22   中島遺跡   1980   22   中島遺跡   1980   25   平安 : 住居跡   25   1980   25   1980   26   1980   27   28   28   28   28   28   28   28				家民•半女•注店颐、畑丛牡建物跡
22		** ** +		甲・畑立住建物跡、海仏退傳、退路仏週傳
1980	21		1980	縄   又・ロット
23   下東西遺跡 (事業団)	20	有里角印度吻研III	1000	
1980~1984   5		中島退跡	1980	
1980~1984   古 墳 : 住居跡、				縄
会良・平安:住居跡、溝跡	22	大車無掃跡 (車業団)	1000-1004	沙
中 世:住居跡、溝跡   1990   古 墳:住居跡   清跡   1991   元 墳:住居跡   1991   1982~1996   1982~1996   1982~1996   1982~1996   1982~1996   1982~1996   1982~1996   1982~1996   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1982   1983	23	「米四息跡(尹未四)	1300 -1304	ロ
国分境遺跡 (事樂団)				市
24				古 境・住居跡
24     国分境III遺跡     1991     古 境:住居跡 泉・平安:住居跡 编:住居跡 编:住居跡 编:住居跡 编: 住居跡 编: 住居跡 编: 住居跡 编: 住居跡 编: 上 元 编:住居跡 本田跡 堀跡 中世:土 允 集: 上 元 集: 住居跡 清: 大形人形中中世:住居跡 清: 上 元 编: 在居跡 清: 大形人形中中世:住居跡 描: 大形人形中中世:住居跡 編: 立土元 集: 在 横: 大田跡 左良・平安:住居跡 編: 立柱建物跡 音良・平安:住居跡 編: 立柱建物跡 [神陽]       26     北原遺跡 (華馬町)     1982     1982     古 境:住居跡 瀬立柱建物跡 [神陽]       27     鳥羽遺跡 (事業団)     1978~1983     奈良・平安:住居跡 瀬立柱建物跡 [神殿]       28     関泉鰻遺跡     1983     奈良・平安:住居跡 細立柱建物跡 (神殿)       29     柿木: 遺跡     1983     奈良・平安:住居跡 海跡 (上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深: 奈良・平安:住居跡 編述柱接ヶ丘遺跡 1988       30     草作遺跡     1984     中 安:住居跡 海跡 (上間) 第       31     総社按ヶ丘遺跡     1985     平 安:住居跡 (是居跡 (現高期) 东良・平安:住居跡 (現高期) 东良・平安:住居跡 中世:道路代遺構 中世:道路代遺構 中世:道路代遺構 中世:道路代遺構 下井遺跡 1986       33     後疋間遺跡   1986     平 安:住居跡 宗良・平安:住居跡 宗良・平安:任居跡 宗成 古城 宗成	1	国分境遺跡(事業団)	1990	会良・平安:住居跡
24     自分項Ⅱ通跡 (群馬町)     1991     奈良・平安:住居跡		True of the we taken.		
国分境III遺跡 (群馬町)	24	国分境Ⅱ遺跡	1991	
国分境III遺跡 (群馬町)	"1		t	
中 世:土坑墓  古良・平安:住居跡、海跡、大形人形  中 世:土坑墓  古良・平安:住居跡、海跡、天目茶碗    中 世:住居跡、海跡、天目茶碗    中 世:住居跡、海跡、天目茶碗    中 世:住居跡、海跡、天目茶碗    中 世:住居跡、海跡、天目茶碗    中 世:住居跡、海跡、天目茶碗      中 世:住居跡、海が、天目茶碗		国分境III遺跡(群馬町)	1991	
1982~1996   古 墳: 住居跡、		MANAGEM CALLED		中世:王坑墓
25 元総社明神遺跡				古 墳:住居跡、水田跡、堀跡
26       北原遺跡 (群馬町)       1982       編 文:土坑、集石遺構 古 读:木田跡 宗良・平安: 住居跡、擬立柱建物跡 宗良・平安: 住居跡、擬立柱建物跡 宗良・平安: 住居跡、擬立柱建物跡 (神殿跡)         27       鳥羽遺跡 (事業団)       1978~1983	25	元総社明神遺跡 I ~ X III	1982~1996	奈良・平安:住居跡、溝跡、大形人形
26     北原遺跡 (群馬町)     1982     古 墳: 水田跡 奈良・平安: : 住居跡、掘立柱建物跡       27     鳥羽遺跡 (事業団)     1978~1983     古 墳: 住居跡、銀心場跡       28     関泉樋遺跡     1983     奈良・平安: 溝跡 (上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深されえ遺跡       29     柿木田遺跡     1983     奈良・平安: 住居跡、溝跡       30     草作遺跡     1984     平 安: 住居跡       30     草作遺跡     1984     平 安: 住居跡       31     総社桜ヶ丘遺跡     1985     平 安: 住居跡       32     関泉樋南遺跡     1985     平 安: 住居跡       32     関泉樋南遺跡     1985     古 墳: 住居跡       33     後疋間遺跡 I ~III(群馬町)     1985~1987     奈良・平安: 住居跡       34     塚田村東遺跡(群馬町)     1985     平 安: 住居跡       35     寺田遺跡     1986     平 安: 住居跡       天神遺跡     1986     平 安: 住居跡       天神遺跡     1986     平 安: 住居跡       天神田遺跡     1988     奈良・平安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     古 墳: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     中 世: 堀跡、石敷遺跡       上田     中 世: 堀跡、石敷遺跡     中 世: 堀跡       26 上田     中 世: 堀跡     中 世: 堀跡				中世:住居跡、溝跡、天目茶碗
26     北原遺跡 (群馬町)     1982     古 墳: 水田跡 奈良・平安: : 住居跡、掘立柱建物跡       27     鳥羽遺跡 (事業団)     1978~1983     古 墳: 住居跡、銀心場跡       28     関泉樋遺跡     1983     奈良・平安: 溝跡 (上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深されえ遺跡       29     柿木田遺跡     1983     奈良・平安: 住居跡、溝跡       30     草作遺跡     1984     平 安: 住居跡       30     草作遺跡     1984     平 安: 住居跡       31     総社桜ヶ丘遺跡     1985     平 安: 住居跡       32     関泉樋南遺跡     1985     平 安: 住居跡       32     関泉樋南遺跡     1985     古 墳: 住居跡       33     後疋間遺跡 I ~III(群馬町)     1985~1987     奈良・平安: 住居跡       34     塚田村東遺跡(群馬町)     1985     平 安: 住居跡       35     寺田遺跡     1986     平 安: 住居跡       天神遺跡     1986     平 安: 住居跡       天神遺跡     1986     平 安: 住居跡       天神田遺跡     1988     奈良・平安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     古 墳: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     平 安: 住居跡       屋敷遺跡     1986     中 世: 堀跡、石敷遺跡       上田     中 世: 堀跡、石敷遺跡     中 世: 堀跡       26 上田     中 世: 堀跡     中 世: 堀跡				縄 文:土坑、集石遺構
27     鳥羽遺跡 (事業団)     1978~1983     古 境 · 任居跡、搬立柱建物跡 (神殿跡)       28     閑泉樋遺跡     1983     奈良・平安 · 住居跡、掘立柱建物跡 (神殿跡)       29     柿木逍跡     1983     奈良・平安 · 住居跡、溝跡       30     草作遺跡     1984     古 墳 · 住居跡       30     草作遺跡     1984     平 安 · 住居跡       4     平 遺跡     1985     平 安 · 住居跡       5     総社桜ヶ丘遺跡     1985     平 安 · 住居跡       6     総社桜ヶ丘遺跡     1987     奈良・平安 · 住居跡       7     泉泉樋南遺跡     1985     丁 墳 · 住居跡       7     京良・平安 · 住居跡     京良・平安 · 住居跡       8     東 安 · 中安 · 連 · 世 · 道路状遺構       1985     平 安 · 連 · 安 · 住居跡       1986     平 安 · 清跡、木製品       1986     天神遺跡     1986       天神遺跡     1986     奈良・平安 · 住居跡       天神遺跡     1986     奈良・平安 · 住居跡       天神遺跡     1986     奈良・平安 · 住居跡       東田 遺跡     1986     - 平安 · 住居跡       東田 遺跡     1988     - 京良・平安 · 住居跡       夏敷遺跡     1986     - 中世 · 世 · 上 ・ 中世 · 上 ・ 中世 · 上 ・ 中 · 世 · 上 ・ 中 · 世 · 上 ・ 中 · 世 · 上 ・ 中 · 世 · 上 ・ 中 · 世 · 上 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 一 · 中 · 世 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 一 · 中 · 世 · 上 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 · 世 · 上 · 一 · 中 ·	26	北原遺跡(群馬町)	1982	古 墳:水田跡
1978				
1983   京良・平安: 注   新加工住産物助、 (中医助)   「中医助   「中医   「中医助   「中国   「中医助   「中医助   「中医助   「中医助   「中医助   「中医助   「中医助   「中国   「中	27	自 <b>羽遺跡(事業</b> 団)	1978~1983	
29     柿木遺跡     1983     奈良・平安:住居跡、溝跡       30     草作遺跡     1984     古 項:住居跡 中 世:井戸跡(蒼海城に伴う)       31     桜ヶ丘遺跡     1985     平 安:住居跡 平安:住居跡 経社桜ヶ丘遺跡       32     関泉樋南遺跡     1985     古 項:住居跡 (鬼高期) 奈良・平安: 津跡       33     後疋間遺跡 I ~III(群馬町)     1985~1987     古 項:住居跡 宋安:住居跡 中 世:道路状遺構       34     塚田村東遺跡(群馬町)     1985     平 安:住居跡 中 世:道路状遺構       35     寺田遺跡     1986     平 安:住居跡				余艮・平安:住居跡、掘立柱建物跡(神殿跡)
1988   1988   1986   1988   1988   1988   1988   1988   1988   1984   1985   1986   1986   1986   1988   1986   1988   1986	28		4	奈艮・半安:溝跡(上幅6.5~7 m、下幅3.24m、深さ2 m)
1988	20			奈良·平安·住民跡 潜跡
30   草作遺跡		柿木II遺跡	1988	
30     草作遺跡     1984     平 安:住居跡中世:井戸跡(蒼海城に伴う)       31     桜ヶ丘遺跡     1985     平 安:住居跡 奈良・平安:住居跡 奈良・平安:住居跡 宗良・平安: 住居跡 切り できる。 中安:住居跡 できる。 中安: 住居跡 のできる。 中安: は居跡 できる。 中安: は居跡 できる。 中安: は居跡 できる。 中安: は居跡 できる。 中央: は居跡 できる。 本書				古墳:住居跡
31       桜ヶ丘遺跡       中 世:井戸跡(蒼海城に伴う)         32       総社桜ヶ丘田遺跡       1985       平 安:住居跡         32       関泉樋南遺跡       1985       古 墳:住居跡(鬼高期) 奈良・平安: 溝跡         33       後疋間遺跡 I ~III(群馬町)       1985~1987       奈良・平安:住居跡中地:道路状遺構         34       塚田村東遺跡(群馬町)       1985       平 安:住居跡中地:道路状遺構         35       寺田遺跡       1986       平 安:溝跡、木製品         天神遺跡       1988       奈良・平安:住居跡         天神道跡       1988       奈良・平安:住居跡         天神川遺跡       1988       奈良・平安:住居跡         室敷遺跡       1986       古 墳:住居跡         屋敷遺跡       1986       古 平 安:住居跡         上田城跡、石敷遺構       中 世:堀跡、石敷遺構	30	草作遺跡	1984	平 安:住居跡
総社桜ヶ丘遺跡   1985   平 安:住居跡   2081   2082				中 世:井戸跡(蒼海城に伴う)
総社桜ヶ丘II遺跡   1987   奈良・平安:住居跡   1985   古 墳:住居跡 (鬼高期)   奈良・平安:溝跡   古 墳:住居跡   在居跡   在居跡   在居跡   在居跡   在居跡   在居跡   在居跡   在居跡   在民跡   在民政   在民跡   在民政				
32     関泉樋南遺跡     1985     古 墳:住居跡(鬼高期)       33     後疋間遺跡 I ~III(群馬町)     1985~1987     古 墳:住居跡       34     塚田村東遺跡(群馬町)     1985     平 安:住居跡       35     寺田遺跡     1986     平 安:溝跡、木製品       天神遺跡     1988      奈良・平安:住居跡       天神遺跡     1988      奈良・平安:住居跡       天神 II 遺跡     1988      奈良・平安:住居跡       屋敷遺跡     1986      古 安:住居跡       屋敷遺跡     1986      古 安:住居跡       屋敷遺跡     1995     中 世:堀跡、石敷遺構	31			
32     閑泉側南遺跡     1985     奈良・平安: 溝跡       33     後疋間遺跡 I ~III(群馬町)     1985~1987     古 墳:住居跡       34     塚田村東遺跡(群馬町)     1985     平 安:住居跡       35     寺田遺跡     1986     平 安:溝跡、木製品       天神遺跡     1988       天神 II 遺跡     1988       天神 II 遺跡     1988       天神 II 遺跡     1988       東湖 遺跡     1988       屋敷遺跡     1986       屋敷遺跡     1986       屋敷 II 遺跡     中       塩敷 II 遺跡     中       塩敷 II 遺跡     中       七 居跡       安:住居跡       安:住居跡       安:住居跡       中     世:堀跡、石敷遺構	<u></u>	総社桜ヶ丘 II 遺跡	1987	奈良・平安:住居跡
SR + Y 女 : 启述	22	問身緬南 <del>清</del> 跡	1085	
33     後疋間遺跡 I ~III(群馬町)     1985~1987     奈良・平安:住居跡中中 世:道路状遺構中中 世:道路状遺構中中 世:道路状遺構中中 世:道路状遺構中中 世:道路状遺構中中 世:道路状遺構中中 世:道路状遺構中 中 世:短路状遺構中 中 世:短路状遺構中 中 世:短路状遺構中 中 世:短路状遺構中 中 世:短路状直横中 中 世:短路状直横中 中 世:短膝、石敷遺構中 中 世:短膝、石敷遺構中 中 世:短膝、石敷遺構	34	内水便用退哟'	1900	奈良・平安:溝跡
34     塚田村東遺跡 (群馬町)     1985     平 安:住居跡       35     寺田遺跡     1986     平 安:溝跡、木製品       天神遺跡     1988       天神遺跡     1986       天神遺跡     1986       天神間遺跡     1986       天神間遺跡     1988       大神間遺跡     1988       臺敷遺跡     1986       「空敷遺跡     1986       「空敷間遺跡     1995       中     世:屈跡、石敷遺構				
34     塚田村東遺跡(群馬町)     1985     平 安:住居跡       35     寺田遺跡     1986     平 安:溝跡、木製品       天神遺跡     1986       天神川遺跡     1988       天神川遺跡     1986       天神川遺跡     1988       大神川遺跡     1988       臺敷遺跡     1986       屋敷遺跡     1986       屋敷川遺跡     1995       中     世:掘跡、石敷遺構	33	後疋間遺跡 I ~III(群馬町)	1985~1987	
35     寺田遺跡     1986     平 安: 溝跡、木製品       天神遺跡     1986       天神川遺跡     1988       天神川遺跡     1986       天神川遺跡     1988       東神川遺跡     1988       臺敷遺跡     1986       屋敷川遺跡     1995       中     世: 堀跡、石敷遺構				
36     天神遺跡     1986       天神川遺跡     1988       天神川遺跡     1986       天神川遺跡     1988       零息・平安:住居跡       室敷遺跡     1986       屋敷川遺跡     1986       古平     安:住居跡       安:住居跡     中       世:堀跡、石敷遺構				
36     天神川遺跡     1988       天神川遺跡     1986       天神川遺跡     1988       37     屋敷遺跡     1986       屋敷川遺跡     1995     古     墳:住居跡       中     世:堀跡、石敷遺構	35			平安:溝跡、木製品
36     天神 II 遺跡     1988       天神 II 遺跡     1986       天神 II 遺跡     1988       37     屋敷遺跡     1986       屋敷 II 遺跡     1995       中     世: 堀跡、石敷遺構		天神遺跡	1986	
			1988	
天神 II 遺跡     1988       37     屋敷遺跡     1986     古平     安:住居跡       屋敷 II 遺跡     1995     中     世:堀跡、石敷遺構	36			宗艮・半女・仕店跡
B   B   B   B   B   B   B   B   B   B			+	-
				士
	37	<b>)                                    </b>	1986	口
T E MAN TAXABIT	31	屋敷II遺跡	1995	中 サ:堀跡、石敷造構
				古墳:住居跡
38   大友屋敷 II • III遺跡   1987   中 安:住居跡、溝跡、地下式土坑	38	大友屋敷II・III遺跡	1987	
			1	丁 タ・江戸跡、伊助、セーバ上が

番号	遺 跡 名	調査年度	時 代:主な遺構・出土遺物
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安:住居跡、溝跡
40	堰越II遺跡	1988	平 安:住居跡 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —
41	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安:住居跡
42	村東遺跡	1988	古 墳:住居跡、溝跡 奈良・平安:住居跡 中 世:堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	<ul><li>縄 文:住居跡</li><li>平 安:住居跡、溝跡</li></ul>
Ī	熊野谷II・III遺跡	1989	平 安:住居跡 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —
44	元総社寺田遺跡 I ~III (事業団)	1988~1991	古 墳:水田跡、溝跡 奈良・平安:住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器 中 世:溝跡
45	弥勒遺跡	1989	古墳:住居跡
45	弥勒II遺跡	1995	平安:住居跡
46	大屋敷遺跡 I~VI	1992~2000	縄       文:住居跡         古       墳:住居跡         奈良・平安:住居跡       世:掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄 文:土坑   平 安:住居跡、瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古 墳:住居跡 平 安:住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平 安:水田跡
	総社閑泉明神北遺跡	1999	古 墳:畠跡、水田跡、溝 中 世:溝跡
50	総社閑泉明神北II遺跡	2001	古 墳:住居跡、溝跡 平 安:住居跡 溝跡
51	元総社宅地遺跡 1~23トレンチ	2000	古 墳:住居跡 マ 生に居跡、堀立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構中 世:溝跡 世:住居跡、(五輪塔の一部、椀類)
52	元総社小見遺跡	2000	縄 文:住居跡 古 墳:住居跡 奈良・平安:住居跡、掘建柱建物跡、溝跡、道路状遺構
53	元総社西川遺跡(事業団)	2000	古 墳:住居跡、畠跡 奈良・平安:住居跡、溝跡
5.4	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安:住居跡、溝跡         中       世: 畠跡         近       世:溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西II遺跡	2001	古 墳:住居跡、 奈良・平安:住居跡、溝跡 近 世:溝跡
55	元総社小見内III遺跡	2001	古 墳:住居跡、溝跡 奈良・平安:住居跡、掘建柱建物跡、溝跡 中 世:掘建柱建物跡、溝跡
	総社甲稲荷塚大道西III遺跡	2002	古 墳:住居跡   奈良・平安:住居跡、畠跡、溝跡
56	総社閑泉明神北III遺跡	2002	<ul><li>縄 文:住居跡</li><li>古 墳:住居跡</li><li>奈良・平安:住居跡</li></ul>
57	│ │元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄 文:住居跡   古 墳:住居跡   奈良・平安:住居跡   振建柱建物跡   中 世:溝跡、道路状遺構
58	元総社小見III遺跡	2002	<ul><li>縄 文:住居跡</li><li>古 墳:住居跡、</li><li>奈良・平安:住居跡、溝跡</li><li>中 世:溝跡、道路状遺構</li></ul>
	元総社草作V遺跡	2002	古 墳:住居跡 奈良・平安:住居跡 中 世:溝跡
59	元総社小見内IV遺跡	2002	古 墳:住居跡 奈良・平安:住居跡、掘建柱建物跡、溝跡 中 世:土坑墓、掘建柱建物跡、溝跡
60	稲荷塚道東遺跡(事業団)	2003	古 墳:住居跡 奈良・平安:住居跡、溝跡、竈構築材採掘痕、井戸跡

#### 調査方針と経過 Ш

#### 調查方針 1

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、本調査が必要とされた地域 (1,093m)である。グリッドについては、4mピッチで西から東へX65、X66、X67…と、北から南へY96、Y97、Y98…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX84・Y98の公共座標は次のとおりである。

第 IX 系 X = +43962.905 Y = -72155.754 (新座標)

X = +43608.000

Y = -71864.000 (旧座標)

緯 度

36°23′36″. 69543

度 139°01′44″. 29494 経

子午線収差角

28'38", 177

増 大 率 0.99996413

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成し た。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で 収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

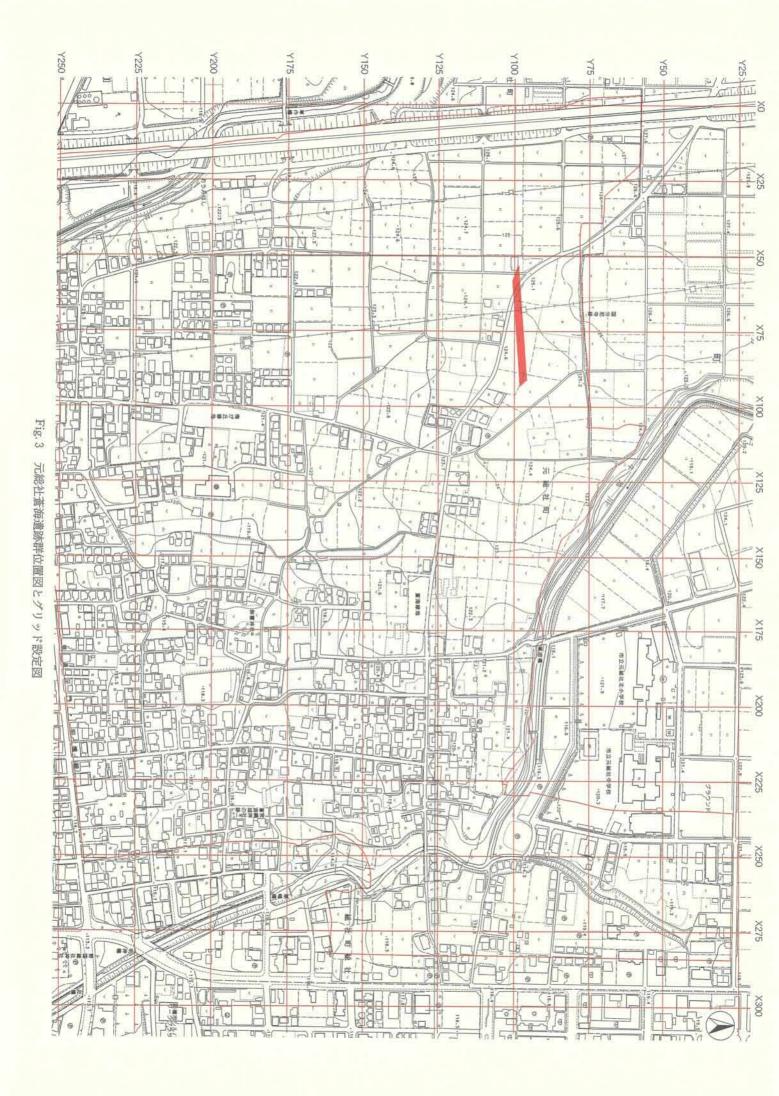
#### 2 調查経過

本調査は5月19日より現地調査を開始した。調査地は畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要が あった。したがってまず、重機 (バックフォー0.7m) にて約30cm程現耕作土を掘削し一カ所に集めた。その後、 更に約50cm程掘り下げ、As-C・Hr-FP を含む暗褐色土の面において遺構確認調査を行った。5月29日には杭打ち 測量を行い遺構の掘り下げ・精査開始に至った。

当初、元総社小見内Ⅷ遺跡A区との平行調査となったため、やや繁雑になることがあったものの、調査はおお むね順調に進んだ。しかし、調査区中央のDB-1号土坑墓から人骨が出土したため、調査作業や各所への連絡事 務処理等に時間を要した。また、同じく調査区中央部において著しい住居跡の重複がみられ、遺構の新旧関係や 遺物の収納等の判断に苦心した。さらに、W-1号溝跡が、調査区北側を東端から西端まで一直線に走行しなが ら他の遺構と重複し、これも新旧関係や遺物の収納等の判断を難しいものとした。そして、精査の結果、竪穴住 居跡22軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡6条、土坑20基、ピット66基、土坑墓2基、畠跡1面を検出した。

8月28日にハイライダー(24m)による調査区全景撮影を行い、9月1日から二面目の調査を開始した。精査 の結果、竪穴住居跡3軒、土坑2基を検出した。9月10日から現場事務所内において遺物洗浄作業や図面整理等 を開始した。 9 月24日には前橋市立第五中学校の 2 年生 3 名が職場体験学習のため当現場事務所を訪れ、発掘調 **香や出土遺物の説明を受けて、実際に遺物の接合や注記等を行い、発掘調査を職とすることの楽しさや苦労を体** 験して帰校した。

12月1日より文化財保護課庁舎に戻り、引き続き整理作業の他、遺物写真撮影等を行い、3月25日にすべての 業務を終了した。



## IV 基本層序

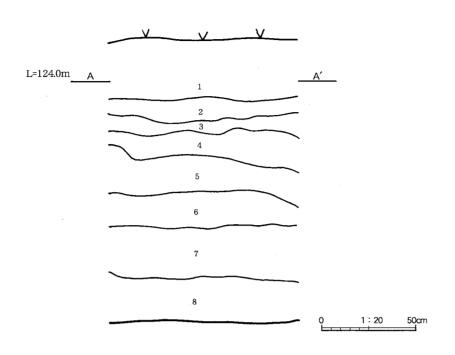


Fig. 4 基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、下記のとおりである。

1 現耕作土

2	灰黄褐色粗砂層(10YR5/2)	締まり○	粘性△	As-C・Hr-FP わずかに含む
3	灰黄褐色粗砂層(10YR4/2)	締まり○	粘性△	As-B 混じる
4	にぶい黄褐色細砂層(10YR4/3)	締まり○	粘性○	As-C・Hr-FP わずかに含む
5	暗褐色細砂層(10YR3/3)	締まり○	粘性○	As-C・Hr-FP 少なく含む
6	黒褐色微砂層(10YR3/1)	締まり○	粘性◎	As-C 含む
7	黒褐色微砂層(10YR3/2)	締まり○	粘性◎	赤い軽石・白い軽石含む
8	暗褐色微砂層 (10YR3/4)	締まり〇	粘性◎	黄色い軽石含む

## V 遺構と遺物

#### 1 竪穴住居跡

#### J-1号住居跡 (Fig. 7、PL. 1)

位置  $X99 \cdot 100$ 、 $Y97 \cdot 98$ グリッド 長軸方向( $N-90^{\circ}-E$ ) 形状等 円形と推定される。長径(4.2)m、短径(2.4)m、壁現高29.5cmを測る。 面積(8.13)m 床面 中央部に向かってやや傾斜する床面。 炉 検出されず。 重複 J-2、 $H-2 \cdot 3 \cdot 4$  と重複しており、新旧関係は $J-2 \rightarrow$  本遺構  $\rightarrow H-2 \cdot 3 \cdot 4$  の順である。 出土遺物 総数156点。そのうち、深鉢 3点、打製石斧 1点、多孔石 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代中期(加曽利EIII期)と考えられる。

#### J-2号住居跡 (Fig. 7、PL. 1)

位置 X99・100、Y97・98グリッド 長軸方向(N−87°−E) 形状等 円形と推定される。長径(5.28)m、短径(3.46)m、壁現高19cmを測る。 面積(16.69)m 床面 ほぼ平坦な床面。 炉 検出されず。 重複 J −1、H−3・4、D−1・2・3・21と重複しており、新旧関係は本遺構→J−1、D−21→H−3・4→D −1・2・3の順である。 出土遺物 総数13点。 備考 時期は重複関係から縄文時代中期以前と考えられる。

#### H-1号住居跡 (Fig. 8、PL.1)

位置 X100・101、Y96グリッド **主軸方向**(N−98°−E) **形状等** 方形と推測される。東西(1.48)m、南 北(0.88)m、壁現高26cmを測る。 **面積**(0.90)m 床面 平坦な床面。 電 検出されず。 **重複** W−1 と重複しており、新旧関係はW−1→本遺構の順である。 出土遺物 なし。 備考 時期は埋土や重複関係か ら上限は8世紀中頃を遡らず、下限はAs-B降下以前と考えられる。

#### H-2号住居跡 (Fig. 8、PL.1)

位置  $X99 \cdot 100$ 、Y98グリッド **主軸方向**( $N-90^{\circ}-E$ ) **形状等** 方形と推定される。東西(4.06)m、南北 (0.64) m、壁現高25cmを測る。 **面積**(2.10) m<sup>2</sup> **床面** ほぼ平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **重複** J-1、H-3と重複しており、新旧関係は $J-1 \rightarrow H-3 \rightarrow$ 本遺構の順である。 **出土遺物** 総数1点。 **備考** 時期 は埋土や重複関係から As-B 降下以前と考えられる。

#### H-3号住居跡 (Fig. 8、PL.1)

位置  $X99 \cdot 100$ 、 $Y97 \cdot 98$ グリッド 主軸方向  $[N-70^{\circ}-E]$  形状等 長方形と推定される。東西 [3.58] m、南北 [4.04] m、壁現高30cmを測る。 面積 [12.28] m 床面 平坦な床面。 電 東側にわずかに焼土が確認 できたが検出されず。 重複  $J-1 \cdot 2$ 、 $H-2 \cdot 4$ 、 $D-1 \cdot 2$  と重複しており、新旧関係は $J-1 \cdot 2 \rightarrow H-4 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-2$ 、 $D-1 \cdot 2$  の順である。 出土遺物 総数107点。 備考 時期は埋土や重複関係から As-B 降下以前と考えられる。

#### H-4号住居跡 (Fig. 8、PL.1)

位置 X99、 $Y97 \cdot 98$ グリッド 主軸方向  $[N-77^{\circ}-E]$  形状等 正方形と推定される。東西 [2.85] m、南北 [2.75] m、壁現高30cmを測る。 面積 [7.30] m 床面 平坦な床面。 電 検出されず。 重複  $J-1 \cdot 2$ 、 $D-3 \cdot 21$ 、H-3 と重複しており、新旧関係は $J-1 \cdot 2$ 、 $D-21 \rightarrow$  本遺構  $\rightarrow H-3$ 、D-3 の順である。 出土遺物 総数55点。 備考 時期は埋土や重複関係から As-B 降下以前と考えられる。

#### H-5号住居跡 (Fig. 8、PL.1)

位置  $X99 \cdot 100$ 、 $Y96 \circ 700$  ッド 主軸方向  $(N-84 \circ - E)$  形状等 方形と推定される。東西 (2.74) m、南北 (1.16) m、壁現高26.5cmを測る。 面積 (2.79) m 床面 平坦な床面。 電 検出されず。 重複 W $-1 \cdot 5$  と重複しており、新旧関係はW $-1 \rightarrow W-5 \rightarrow$  本遺構の順である。 出土遺物 総数70点。 備考 時期は埋土や重複関係から上限は8世紀中頃を遡らず、下限はAs-B 降下以前と考えられる。

#### H-6号住居跡 (Fig.9、PL.2)

位置  $X88 \cdot 89$ 、 $Y97 \cdot 98$ グリッド **主軸方向**  $N-82^\circ-E$  **形状等** 正方形。東西5.98m、南北5.56m、壁現高67cmを測る。 **面積** 29.11m **床面** 平坦で堅緻な床面。周溝有。 **電** 東壁中央南より検出され、主軸方向が $N-85^\circ-E$ であり、全長131cm、最大幅120cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、灰白色粘土、両袖に長胴甕、支脚石を使用している。 **重複** D-19と重複しており、新旧関係はD-19→本遺構の順である。 出土遺物 総数591点。そのうち、坏2点、高坏1点、甑1点、甑1点、、52点、、52点を図示した。**備考** 時期は埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

#### H-7号住居跡 (Fig.10、PL.2)

位置  $X86 \cdot 87$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド 主軸方向  $(N-80^{\circ}-E)$  形状等 方形と推定される。東西 (3.70) m、南北 (2.72) m、壁現高71cmを測る。 面積 (8.14) m 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁より検出され、主軸方向が  $(N-92^{\circ}-E)$  であり、全長 (88) cm、最大幅 (54) cm、焚口部幅 (26) cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複 W-2 と重複しており、新旧関係は本遺構 W-2 の順である。 出土遺物 総数892点。そのうち、坏 7点、蓋 3点、甕 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 8世紀前半と考えられる。

#### H-8号住居跡 (Fig.10、PL.2)

位置 X84・85、Y98・99グリッド 主軸方向(N-83°-E) 形状等 方形と推定される。東西(2.86)m、南北(0.75)m、壁現高57.5㎝を測る。 面積(1.82)㎡ 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 検出されず。 出土遺物 総数93点。そのうち、坏1点、高坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

#### H-9号住居跡 (Fig.11、PL.2)

位置  $X84 \cdot 85$ 、 $Y97 \cdot 98 /$  リッド 主軸方向  $(N-89^{\circ}-E)$  形状等 長方形と推定される。東西 (3.74) m、南北 (3.49) m、壁現高58.5cmを測る。 面積 (10.41) m 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 竈 東壁より検出され、主軸方向が $N-96^{\circ}-E$ であり、全長125cm、最大幅117cm、焚口部幅53cmを測る。構築材として、灰白色粘土、両袖に石を使用している。 重複  $W-1 \cdot 2$  と重複しており、新旧関係は本遺構  $W-1 \rightarrow W-2$  の順である。 出土遺物 総数957点。そのうち、坏 3 点、甕 2 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

#### H-10号住居跡 (Fig.11、PL.2)

位置 X81・82、Y97・98グリッド 主軸方向(N−78°−E) 形状等 方形と推定される。東西(3.08)m、南北(1.33)m、壁現高55㎝を測る。 面積(3.01)㎡ 床面 堅緻な床面。周溝有。 竈 検出されず。 重 複 W−1と重複しており、新旧関係は本遺構→W−1の順である。 出土遺物 総数94点。そのうち、坏 4点、高台椀 1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 7世紀末頃と考えられる。

#### H-11号住居跡 (Fig.12、PL.3)

位置  $X79 \cdot 80$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド 主軸方向( $N-78^\circ-E$ ) 形状等 長方形と推定される。東西(4.32)m、南北 (3.56) m、壁現高55.5cmを測る。 面積 (12.36) m 床面 平坦で堅緻な床面。 電 東壁より検出され、主軸方向が ( $N-90^\circ-E$ ) であり、全長141cm、最大幅 (68) cm、焚口部幅 (38) cmを測る。 構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複  $H-12 \cdot 13$ と重複しており、新旧関係は本遺構  $H-13 \rightarrow H-12$ の順である。出土遺物 総数565点。そのうち、坏6点、高台椀1点、甕1点、長頸壺1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

#### H-12号住居跡 (Fig.12、PL.3)

位置 X79・80、Y98・99グリッド 主軸方向(N−84°-E) 形状等 長方形と推定される。東西(3.58)m、南北(3.90)m、壁現高27.5cmを測る。 面積(12.86)m² 床面 平坦な床面。 竈 東壁より検出され、主軸方向がN−84°-Eであり、全長139cm、最大幅64cm、焚口部幅48cmを測る。構築材として、灰白色粘土、竈全体に石を使用している。 重複 H−11・13と重複しており、新旧関係はH−11→H−13→本遺構の順である。 出土遺物 総数131点。そのうち、坏2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

#### H-13号住居跡 (Fig.13、PL.4)

位置  $X78 \cdot 79$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド 主軸方向  $[N-107^{\circ}-W]$  形状等 長方形。東西 [3.38] m、南北 [4.56] m、壁現高49.0cmを測る。 面積 [13.86] m 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。北側に拡張され、その部分に地山を利用した棚有。 竈 東壁の外側に灰白色粘土・焼土ブロックが固まっている部分があり、古い竈が存在したと推定される。新しい竈は、西壁中央南寄りより検出され、主軸方向が $N-107^{\circ}-W$ であり、全長89cm、最大幅84 cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複  $H-11 \cdot 12 \cdot 14 \cdot 15$ と重複しており、新旧関係は $H-11 \rightarrow$ 本遺構、 $H-15 \rightarrow H-14 \rightarrow$ 本遺構  $\rightarrow H-12$ の順である。 出土遺物 総数576点。そのうち、坏2点、蓋1点、高台椀1点、短頸壺1点、甕2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀中頃と考えられる。

#### H-14号住居跡 (Fig.13、PL.4)

位置  $X78 \cdot 79$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド 主軸方向  $[N-85^{\circ}-E]$  形状等 正方形と推定される。東西 [3.56] m、南北 [3.52] m、壁現高46.5cmを測る。 面積 [11.20] m 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 竈 東壁にあった と推測されるが住居の重複により詳細不明。 重複  $H-13 \cdot 15$ と重複しており、新旧関係はH-15→本遺構→ H-13の順である。 出土遺物 総数760点。そのうち、坏3点、蓋1点、高台椀1点、壺2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

#### H-15号住居跡 (Fig.14、PL.4)

位置 X77~79、Y99グリッド 主軸方向 (N−67°-E) 形状等 方形と推定される。東西 (5.16) m、南北 (2.46) m、壁現高70cmを測る。 面積 (6.82) m 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 竈 検出されず。 重 複 H−14・16と重複しており、新旧関係は本遺構→H−14、本遺構→H−16の順である。 出土遺物 総数31 点。そのうち、坏1点、蓋1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

#### H-16号住居跡 (Fig.14、PL.4)

位置  $X77 \cdot 78$ 、Y99グリッド **主軸方向**( $N-83^{\circ}-E$ ) 形状等 長方形と推定される。東西(3.15) m、南北(2.42) m、壁現高50.5cmを測る。 面積(6.34) m 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 竈 東壁より検出され、主軸方向が( $N-93^{\circ}-E$ )であり、全長(84) cm、最大幅(38) cm、焚口部幅(14) cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複  $H-15 \cdot 17$ と重複しており、新旧関係は $H-15 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-17$ の順

である。 **出土遺物** 総数91点。そのうち、坏 2点、高台椀 1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 8世紀中頃と考えられる。

#### H-17号住居跡 (Fig.14、PL.4)

位置 X77、Y99グリッド **主軸方向**( $N-60^{\circ}-E$ ) **形状等** 方形と推定される。東西 (1.60) m、南北 (2.34) m、壁現高50cmを測る。 **面積** (1.83) m **床面** ほぼ平坦で堅緻な床面。 **電** 検出されず。 **重複** H-16 と重複しており、新旧関係はH-16→本遺構の順である。 **出土遺物** 総数60点。そのうち、坏1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や重複関係から 8 世紀中頃以降と考えられる。

#### H-18号住居跡 (Fig.15、PL.4)

位置  $X77 \cdot 78$ 、 $Y97 \cdot 98$ グリッド 主軸方向  $(N-75^\circ-E)$  形状等 長方形と推定される。東西 (3.60) m、南北 (3.48) m、壁現高37.5cmを測る。 面積 (10.35) m 床面 平坦で堅緻な床面。 竈 東壁より検出されたが、W-1 に壊されており残存状況は良くない。主軸方向が  $(N-^\circ73-E)$  であり、全長 (78) cm、最大幅 (70) cm、焚口部幅 (46) cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複 W-1、D-14と重複しており、新旧関係は本遺構  $W-1 \rightarrow D-14$ の順である。 出土遺物 総数135点。そのうち、坏 3 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 7 世紀末頃と考えられる。

#### H-19号住居跡(Fig.15、PL.4)

位置  $X76 \cdot 77$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド 主軸方向  $N-69^{\circ}-E$  形状等 長方形。東西3.50m、南北4.90m、壁現高53.5cmを測る。 面積 14.59m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。 竈 東壁中央南寄りより検出され、主軸方向が $N-71^{\circ}-E$ であり、全長114cm、最大幅110cm、焚口部幅59cmを測る。構築材として、灰白色粘土、袖に石を使用している。 重複 W-1と重複しており、新旧関係は本遺構 W-1の順である。 出土遺物 総数360点。そのうち、坏4点、蓋1点、台付甕1点、甕1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀末頃から8世紀初頭と考えられる。

#### H-20号住居跡 (Fig.16、PL.5)

位置  $X71 \cdot 72$ 、 $Y99 \cdot 100$ グリッド 主軸方向( $N-100^\circ-E$ ) 形状等 長方形と推定される。東西(3.64) m、南北(3.76) m、壁現高64.5cmを測る。 面積(11.68) m³ 床面 ほぼ平坦な床面。 竈 東壁より検出され、主軸方向が( $N-93^\circ-E$ )であり、全長138cm、最大幅(81) cm、焚口部幅(48) cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複 W-4と重複しており、新旧関係は本遺構W-4の順である。 出土遺物 総数274点。そのうち、坏5点、蓋1点、甕2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀初頭と考えられる。

#### H-21号住居跡 (Fig.16、PL.5)

位置  $X69 \cdot 70$ 、 $Y99 \cdot 100$ グリッド 主軸方向  $[N-85^{\circ}-E]$  形状等 長方形と推定される。東西 [4.11] m、南北 [3.34] m、壁現高35cmを測る。 面積 [12.71] m 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。 竈 東壁中央より検出され、主軸方向が $N-84^{\circ}-E$ であり、全長155cm、最大幅125cm、焚口部幅45cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 重複 H-22、D-22、W-4 と重複しており、新旧関係は本遺構  $\rightarrow H-22 \rightarrow D$   $-22 \rightarrow W-4$  の順である。 出土遺物 総数165点。そのうち、坏7点、蓋3点、高台椀4点、甕6点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

#### H-22号住居跡 (Fig.17、PL.6)

位置 X69・70、Y99・100グリッド 主軸方向 (N-116°-E) 形状等 方形と推定される。東西 (4.49) m、

南北 (2.34) m、壁現高13cmを測る。 **面積** (6.13) m **床面** ほぼ平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **重複** H -21、D-22、W-4と重複しており、新旧関係はH-21→本遺構 D-22 W-4 の順である。 **出土遺物** 総数62点。そのうち、坏1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や重複関係から 8 世紀前半以降と考えられる。

#### H-23号住居跡 (Fig.17、PL.6)

位置  $X68 \cdot 69$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド **主軸方向**  $(N-83^{\circ}-E)$  **形状等** 方形と推定される。東西 (3.68) m、南北 (1.54) m、壁現高71cmを測る。 **面積** (4.91) m **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁より検出され、主軸方向が  $(N-84^{\circ}-E)$  であり、全長 (116) cm、最大幅 (46) cm、焚口部幅 (20) cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 **重複** W-1、D-20と重複しており、新旧関係は本遺構→W-1、本遺構→D-20の順である。 出土遺物 総数58点。そのうち、坏1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

#### 2 据立柱建物跡

#### B-1号掘立柱建物跡 (Fig.18、PL.6)

#### 3 溝 跡

#### W-1号溝跡 (Fig.19、PL.6)

位置 X65~101、Y96~98グリッド 主軸方向 N−86°-E 形状等 U字形。長さ143.3m、深さ47cm、最大上幅170cm、最大下幅85cmを測る。 重複 H−1・5・9・10・18・19・23、B−1、W−2・4・5・6、D −14・18、DB−2と重複しており、新旧関係はH−9・10・18・19・23、B−1、D−18→本遺構→H−1・5、W−2・4・5・6、D−14、DB−2の順である。 出土遺物 総数753点。そのうち、坏1点、壺1点、甕1点、瓦13点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物・重複関係から上限は8世紀前半を遡らず、下限はAs-B降下以前と考えられる。

#### W-2号溝跡 (Fig.19)

位置  $X84\sim86$ 、 $Y97\sim99$ グリッド 主軸方向  $N-48^\circ-W$  形状等 U字形。長さ9.7m、深さ30cm、最大上幅 145cm、最大下幅85cmを測る。 重複  $H-7\cdot9$ 、W-1と重複しており、新旧関係は $H-7\cdot9$ 、 $W-1\rightarrow$ 本 遺構の順である。 出土遺物 総数125点。 備考 時期は埋土や重複関係から As-B 降下以降と考えられる。

#### W-3号溝跡

位置  $X84\sim86$ 、 $Y97\cdot98$ グリッド **主軸方向** 円弧状に走行しているため不明。 **形状等** U字形。長さ12.5 m、深さ14cm、最大上幅105cm、最大下幅55cmを測る。 **重複** B-1と重複しており、新旧関係は本遺構 $\rightarrow$ B-1の順である。 出土遺物 総数17点。 備考 時期は埋土や重複関係から8世紀前半以前と考えられる。

#### W-4号溝跡 (Fig.20、PL.6)

位置 X65~72、Y98・99グリッド 主軸方向 N-84°-W 形状等 V字形。長さ27.2m、深さ56cm、最大上

幅120cm、最大下幅35cmを測る。 **重複**  $H-20 \cdot 21 \cdot 22$ 、 $W-1 \cdot 6$  と重複しており、新旧関係は $H-20 \cdot 21 \cdot 22$ 、 $W-1 \rightarrow$  本遺構  $\rightarrow$  W-6 の順である。 **出土遺物** 総数 9 点。 **備考** 時期は埋土や重複関係から上限は 8 世紀前半を遡らないと考えられる。

#### W-5号溝跡

位置  $X98\sim100$ 、 $Y96\sim98$ グリッド **主軸方向** 南壁からN-6°-Wの方向で北へ5.8m進み、そこからN-78°-Eの方向で東へ6.6m進み北壁にあたる。 **形状等** U字形。長さ12.4m、深さ32cm、最大上幅70cm、最大下幅50cmを測る。 **重複** H-5、W-1、DB-2と重複しており、新旧関係はW-1 →本遺構  $\rightarrow$  H-5、DB-2 の順である。 出土遺物 総数100点。 **備考** 時期は埋土や重複関係から8世紀代から9世紀代と考えられる。

#### W-6号溝跡 (Fig.19)

位置  $X66 \cdot 67$ 、 $Y97 \cdot 98$ グリッド **主軸方向**  $N-12^\circ-E$  **形状等** U字形。長さ3.4m、深さ10cm、最大上幅70cm、最大下幅40cmを測る。 **重複** W $-1 \cdot 4$  と重複しており、新旧関係はW $-1 \cdot 4$  →本遺構の順である。 出土遺物 総数1点。 **備考** 時期は埋土や重複関係から中世以降と考えられる。

#### 4 畠 跡

位置  $X88 \cdot 89$ 、 $Y98 \cdot 99$ グリッド 主軸方向  $N-54^\circ-W$  重複 H-6 と重複しており、新旧関係はH-6 →本遺構の順である。 出土遺物 本遺構に関連する遺物の出土はなかった。 備考 時期は埋土や主軸方向から、W-2 とともに As-B 降下以降と考えられる。

#### 5 土坑・ピット (Fig.21~24)

土坑・ピットについては、Tab.4 土坑・ピット計測表 (P17) を参照のこと。

D-18は、覆土に灰白色粘質土が何層にも認められることから粘土採掘抗と考えられる。なお、D-21の深鉢 3 点を図示した。

#### 6 グリッド等出土遺物

小破片を含め総数1843点の遺物を出土した。そのうち、緑和1点、灰釉高台椀1点を図示した。

Tab. 2 竪穴住居跡一覧表

Note the As	/± pm	規 模 (m)	面積	壁現高		炉。	電	周	主な出土遺物			
遺構名	位置	東西×南北 長径×短径	(m²)	(cm)	主軸方向	位 置	構築材	溝	上師器	須恵器	その他	
J-1	X99 • 100, Y97 • 98	$(4.20) \times (2.40)$	(8.13)	29.5	(N-90°-E)	_	_	_			深鉢·打製石斧	
J-2	X99 • 100, Y97 • 98	$(5.28) \times (3.46)$	(16.69)	19.0	(N-87°-E)	_	_	_				
H-1	X100 · 101, Y96	$(1.48) \times (0.88)$	(0.90)	26.0	(N-98°-E)	_		_				
H-2	X99 • 100, Y98	$(4.06) \times (0.64)$	(2.10)	25.0	(N-90°-E)	_	_	_				
H-3	X99 • 100, Y97 • 98	$[3.58] \times [4.04]$	[12.28]	30.0	[N-70°-E]	_		-			-	
H-4	X99、Y97・98	$[2.85] \times [2.75]$	[ 7.30]	30.0	[N-77°-E]	_		_				
H-5	X99 • 100, Y96	$(2.74) \times (1.16)$	(2.79)	26.5	(N-84°-E)		-	_				
H-6	X88 • 89、Y97 • 98	$5.98 \times 5.56$	29.11	67.0	N-82°-E	東壁中央南	粘土•石•甕	0	坏・甕	坏・高坏・大甕	環状金具	
H-7	X86 • 87、 Y 98 • 99	$(3.70) \times (2.72)$	(8.14)	71.0	(N-80°-E)	東 壁	粘 土		坏・甕	蓋•坏	臼玉	
H-8	X84 • 85、 Y98 • 99	$(2.86) \times (0.75)$	(1.82)	57.5	(N-83°-E)	_	_	_	坏	高坏		
H-9	X84 · 85, Y97 · 98	$(3.74) \times (3.49)$	(10.41)	58.5	(N-89°-E)	東 壁	粘土・石	0	坏・甕	坏	鉄鏃	
H-10	X81 • 82, Y97 • 98	$(3.08) \times (1.33)$	(3.01)	55.0	(N-78°-E)	_	_	0	坏	高台椀		
H-11	X79 · 80, Y98 · 99	$(4.32) \times (3.56)$	(12.36)	55.5	(N-78°-E)	東 壁	粘 土	-	坏・甕	高台椀 • 長頸壺		
H-12	X79 · 80, Y98 · 99	$(3.58) \times (3.90)$	(12.86)	27.5	(N-84°-E)	東 壁	粘土·石	_	坏			
H-13	X78 • 79, Y98 • 99	$[3.38] \times [4.56]$	[13.86]	49.0	[N-107°-W]	西壁中央南	粘 土	_	坏・甕	蓋・坏・高台椀		
H-14	X78 • 79, Y98 • 99	$[3.56] \times [3.52]$	[11.20]	46.5	[N-85°-E]	<u>.</u>	_	_	坏・壺	蓋・高台椀・長頸壺	鎌	
H-15	X77~79、Y99	$(5.16) \times (2.46)$	(6.82)	70.0	(N-67°-E)	_		0	坏	蓋		
H-16	X77 • 78、 Y99	$(3.15) \times (2.42)$	(6.34)	50.5	(N-83°-E)	東 壁	粘 土	_	坏	坏・高台椀		
H-17	X77、Y99	$(1.60) \times (2.34)$	( 1.83)	50.0	(N-60°-E)		_	_	坏.			
H-18	X77 • 78, Y97 • 98	$(3.60) \times (3.48)$	(10.35)	37.5	(N-75°-E)	東 壁	粘 土	_	坏			
H-19	X76 • 77, Y98 • 99	$3.50 \times 4.90$	14.59	53.5	N-69°-E	東壁中央南	粘土・石	_	坏・甕	蓋・坏		
H-20	X71 · 72, Y99 · 100	$(3.64) \times (3.76)$	(11.68)	64.5	(N-100°-E)	東 壁	粘 土	_	坏•甕	蓋・坏	刀子	
H-21	X69 • 70, Y99 • 100	$[4.11] \times [3.34]$	[12.71]	35.0	[N-85°-E]	東壁中央	粘 土	0	坏・甕	蓋・坏・大甕	釘	
H-22	X69 • 70, Y99 • 100	$(4.49) \times (2.34)$	(6.13)	13.0	(N-116°-E)			_	坏			
H-23	X68 • 69、 Y98 • 99	$(3.68) \times (1.54)$	( 4.91)	71.0	(N-83°-E)	東 壁	粘 土	_	坏		砥石	

Tab. 3 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ (m)	最大軸 上幅	區(m) 下幅	深さ (m)	断面形	主軸方向	新旧関係(旧<新)
W-1	X65~101、Y96~	98 143.3	1.70	0.85	0.47	U字形	N-86°-E	H-9・10・18・19・23、B-1、D-18< 本遺構 <h-1・5、w-2・4~6、d-14、 DB-2</h-1・5、w-2・4~6、d-14、 
W-2	X84~86, Y97~9	9 9.7	1.45	0.85	0.30	U字形	N-48°-W	H−7・9、W−1 <本遺構
W-3	X80~83, Y97 • 9	8 12.5	1.05	0.55	0.14	U字形	円 弧 状	本遺構 < B - 1
W- 4	X65~72, Y98 • 9	9 27.2	1.20	0.35	0.56	V字形	N-84°-W	H-20~22、W-1 <本遺構 <w-6< td=""></w-6<>
W-5	X98~100、Y96~	98 12.4	0.70	0.50	0.32	U字形	N-6°-W N-78°-E	W-1<本遺構 <h-5、db-2< td=""></h-5、db-2<>
W-6	X66 • 67, Y97 • 9	8 3.4	0.70	0.40	0.10	U字形	N-12°-E	W-1 ⋅ 4 <本遺構

Tab.4 土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺物総数	遺構名	位	置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺物総数
D-1	X100、Y97	108	77	15.5	楕円形		P-23	X89、Y97	,	57	48	74.5	楕円形	
D-2	X99 • 100, Y97	116	71	13.5	楕円形		P24	X86, Y98	3	64	54	42.5	円形	
D-3	X99、Y97	141	129	11.5	円形		P-25	X85 • 86、	Y 98	100	80	38.5	楕円形	
D-4	X92、Y97 • 98	349	214	134.5	方 形	J7土1須2	P-26	X85, Y98	3 <b>-</b> 99	( 55)	(42)	(25.5)	楕円形	J 16
D-5	X97、Y97	126	104	53.0	楕円形	J 1	P —27	X85、Y98	3	76	67	23.5	円形	J 11土 1
D-6	X95、Y97	141	129	12.5	円形	J 1	P-28	X84、Y98	3	33	32	21.5	円形	J 10± 1
D-7	X92 • 93、Y98	(119)	( 98)	(19.0)	楕円形	J 1土4	P-29	X83、Y98	3	19	18	19.5	円形	J 9 ± 1
D-8	X90 • 91、Y98	(119)	(70)	(13.0)	楕円形		P-30	X83、Y98	3	27	23	26.0	円形	J 4
D-9	X89 • 90、Y97 • 98	132	109	24.5	方 形		P-31	X82 · 83、	Y 98	36	- 35	24.5	円形	
D-10	X86、Y97·98	162	119	33.0	楕円形	J17土6須1	P-32	X82, Y98	3	47	35	18.0	楕円形	
D-11	X85、Y98	101	90	45.5	円形	J 36	P-33	X82, Y98	3	36	31	22.0	円形	Ј 1
D-12	X82, Y98	108	90	42.0	円形	土1須1	P-34	X82, Y98	3	55	50	32.5	円 形	
D-13	X70, Y100	( 88)	( 37)	(21.0)	楕円形	土12	P-35	X82, Y98	3	37	36	19.5	円形	
D-14	X77 • 78、Y98	182	80	18.5	楕円形	土13須13	P-36	X82, Y98	3	40	37	12.0	円形	J 1
D-15	X73、Y98 • 99	(113)	81	21.0	楕円形	J 1土2須1瓦1	P-37	X82, Y98	3	(89)	52	32.5	楕円形	
D-16	X72 • 73、Y99	209	72	9.5	楕円形	J 1土1須1	P-38	X82、Y98	3	38	36	21.0	円形	
D-17	X70 • 71、Y99	(146)	61	13.0	方 形		P —39	X82, Y98	3	57	53	23.0	円形	土15須 3
D-18	X74、Y98	204	93	80.5	方 形		P-40	X82, Y98	3	44	35	35.0	円形	土1須1
D-19	X88 • 89、Y98 • 99	(182)	(147)	(87.0)	方 形		P-41	X82, Y98	3	44	41	28.0	円形	
D-20	X68、Y99	118	90	70.0	方 形		P-42	X82、Y97	7	58	43	36.0	楕円形	
D-21	X98、Y97 • 98	95	94	27.0	円形	J 52土 1	P-43	X82, Y98	3 • 99	32	30	21.5	円形	
D-22	X69 • 70 X99 • 100	(276)	(136)	(28.0)	楕円形	土1	P-44	X81 • 82、	Y 98	50	49	29.0	楕円形	
P-1	X100、Y97・98	120	94	40.0	楕円形	土 2	P45	X81, Y98	3	61	50	31.0	円形	
P-2	X100, Y97	52	49	13.0	円形		P-46	X81、Y98	3	46	45	23.5	円形	
P-3	X100, Y97	51	45	9.0	円形		P-47	X81, Y99	)	43	36	34.0	楕円形	土 2
P-4	X97、Y98	54	51	9.0	円形	7.7.	P-48	X81, Y99	)	42	27	11.0	楕円形	土1須1
P — 5	X97、Y97・98	52	40	19.5	方 形		P-49	X80 · 81,	Y99	41	38	16.5	円形	土 3
P-6	X97, Y97	53	50	10.5	円形		P-50	X80, Y99	9	44	36	22.5	楕円形	
P-7	X97、Y98	50	( 35)	23.5	楕円形	,	P-51	X80, Y97	7	44	38	23.5	円形	J 1 ± 5
P-8	X96、Y98	48	( 32)	5.0	楕円形		P-52	X80, Y97	7	46	45	23.0	円形	
P-9	X97, Y97	64	59	53.5	円形		P53	X80, Y98	3	38	34	32.5	円形	
P-10	X97, Y97	40	. 37	36.5	円形		P-54	X80, Y98	3	40	34	23.5	円形	
P-11	X96 • 97、Y97	50	49	25.5	円形	J2土1須1	P-55	X76, Y99	)	50	40	26.5	楕円形	
P-12	X95, Y98	50	44	17.5	円形		P-56	X75 • 76,	Y 99	78	65	30.0	楕円形	
-	X95、Y98	49	48	42.0	円形			X75. Y99		65	51	21.5	楕円形	
P-14	X95、Y97 • 98	33	24	11.5	楕円形		P —58	X73、Y99	9	48	46	13.5	円形	
P-15	X95、Y97	50	43	16.5	楕円形		P —59	X73、Y98	3	38	32	23.0	円形	
P-16	X93 • 94、Y97	51	37	18.0	楕円形		P-60	X73, Y99	<del>)</del>	39	38	24.5	円形	須1
P-17	X93、Y97	58	44	25.5	楕円形		P-61	X73, Y99	}	42	39	16.0	円形	
P-18	X90 • 91、Y97	78	64	34.0	方 形		P-62	X73、Y99	<del>)</del>	40	39	34.5	楕円形	
P-19	X91、Y97	31	25	32.5	楕円形		P-63	X73、Y98	3	42	41	26.5	楕円形	
	X90、Y97	78	45	23.5	方 形		<del> </del>	X73, Y98		45	35	32.5	楕円形	
-	X90、Y97・98	61	54	21.0	方 形		├	X72, Y98		73	37	30.0	不整形	
P-22	X89、Y97	57	48	19.5	不整形		P-66	X68, Y99	9	44	37	23.0	楕円形	土2

(注) 遺物総数のJは縄文土器、土は土師器、須は須恵器、瓦は瓦片のこと

Tab. 5 縄文時代出土土器観察表

番号	出土位置	器形	①胎土②焼成③色調④残存	文様構成・文様施文・器形の特徴	備	考
1	J-1-1 床直	深鉢	①中粒②良好③橙色 ④口縁~胴部上位	口縁部:内彎気味、RL 斜縄文を充塡した楕円区画文、胴部との区画に微隆帯有。胴部:RL 斜縄文と無文帯の間に 2 本の沈線有。	加曽和	¶ΕШ
2	J-1-2 床直	深鉢	①中粒②良好③橙色 ④胴部破片	半裁竹管による条線文。	曽利	
3	J-1-3 埋土	深鉢	①中粒②良好③橙色 ④口縁破片	口縁部:RL 斜縄文を充塡した楕円区画文。	加曽和	¶ЕШ
4	D-21-1 床直	深鉢	①中粒②良好③にぶい黄橙色 ④口縁破片	口縁部:RL 斜縄文による羽状構成。	加曽和	ΊЕ
5	D-21-2 埋土	深鉢	①中粒②良好③にぶい黄橙色 ④破片	微隆帯有。無文帯の両側に、RL 斜縄文を充塡した沈線区画帯有。	加曾和	∜EIV
6	D-21-3 埋土	深鉢	①中粒②良好③にぶい黄橙色 ④胴部破片	「U」形や「A」形の沈線による区画帯を配列し、無文帯は研磨され、区画内を RL 斜縄文で充塡。	加曽和	∜E IV

<sup>(</sup>注) ①胎土は、細粒 (0.9 um以下)、中粒  $(1.0 \sim 1.9 \text{um}$ 以下)、粗粒 (2.0 um以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。 ②焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

Tab. 6 石器観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石 材	依存度	備考
1	J-1・床直	打製石斧	11.9	4.6	1.6	100.0	頁 岩	完 形	短冊形
2	J-1・床直	多孔石	18.2	17.7	11.8	2720.0	安山岩	不 明	

<sup>(</sup>注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

Tab. 7 奈良·平安時代出土土器観察表

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	号
1	H-6-1 埋土	坏 土師器		①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。底部:浅い丸 底、内面撫で、外面箆削り。		
2	H-6-2 埋土			①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部:外傾、内・外面轆轤撫で、交換点に稜有。底部:浅 い丸底、内・外面撫で。	口縁部タ 墨書	<b>小面</b>
3	H-6-3 埋土			①細粒②良好 ③灰色④脚部破片	轆轤整形。坏部:欠損。脚部:内・外面撫で、 2 段の透かし 2 つ有。		
4	H-6-4 床直		_	①細粒②良好 ③にぶい褐色④破片	口縁・胴部:欠損。底部:内面撫で後箆磨き、外面箆削り。底部は径9.0 cmの単孔。		
5	H-6-5 埋土			①細粒②良好③にぶい 黄橙色④破片	口縁部:短く外反、内・外面横撫で。頸部:直立気味、内・外面撫で。 体部:内面撫で、外面横箆削り。底部:欠損。		
6	H-6-6 床直		_	①細粒②良好 ③にぶい橙色④底部	口縁部:欠損。体部下位:内面撫で、外面横箆削り。底部:突出底。		
7	H-6-7 竈、床直			①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部:短く外傾、内・外面横撫で。頸部にくびれ有。胴部:内面撫で、 外面縦箆削り、胴部下半に煤付着。底部:平底。	竈左袖	
8		l		①細粒②良好 ③にぶい橙色④3/4	口縁部:器最大径、大きく外傾、内・外面横撫で。頸部にくびれ無。 胴部:内面撫で、外面縦箆削り。底部:欠損。	竈右袖	
9	H-6-9 床直	1		①細粒②良好 ③にぶい褐色④破片	口縁部:器最大径、外傾、内・外面横撫で。頸部にくびれ無。胴部:内面撫で、外面縦篦削り。底部:欠損。		
10	H-6-10 床直	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		①細粒②良好③灰黄 褐色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。頸部に明瞭なくびれ無。胴部:内面撫 で、外面縦箆削り。底部:欠損。		
11	H-6-11 床直	, , ,,,,,	-	①細粒②良好 ③灰色④口縁~胴部	轆轤整形。口縁部:外傾から外彎、内・外面撫で。外面に沈線で区画した間に波状文を入れた文様が3段巡る。胴部:内面青海波状文、外面平行叩き目文。底部:欠損。		
12	H-7-1 埋土	坏 土師器	① 11.2 ② 3.5	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部:やや内彎、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		
13	H-7-2 埋土	坏 土師器	① 12.8 ② 3.8	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		
14	H-7-3 床直	坏 土師器		①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/5	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。		
15	H-7-4 床直	坏 土師器		①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部:短く内傾、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		

③色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	考
16	H-7-5	坏		①細粒②良好	口縁部:短く内傾、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削		
17	世土 H-7-6 埋土	工即奋 蓋 須恵器	① [16.6]	③橙色④1/5 ①細粒②良好 ③灰白色④破片	り。 轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、 弱い返り有。摘み:環状摘み。		
18	班—7—7 埋土	蓋		①細粒②良好	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、返り有。摘み:欠損。	外面自	然釉
19		甕 蓋	① [22.9]	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。天井部:水平、端部垂直気味、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、返り有。摘み:欠損。		
20	H-7-9 埋土	坏 須恵器		①細粒②良好 ③褐灰色④2/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾の体部から端部やや直立気味、内・外面撫 で。底部:平底、内面撫で、外面手持ち箆削り。		
21	H-7-10 床直	坏 須恵器		①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、 外面手持ち箆削り。		
22	H—7—11 床直			①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部:器最大径、外反気味、内・外面横撫で。頸部に明瞭なくびれ無。 胴部上位:内面撫で、外面斜め箆削り。		
23	H-8-1 埋土	坏 土師器		①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:外傾から外反、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。底部:浅 い丸底、内面撫で、外面箆削り。		
24	H-8-2 埋土			①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。坏部:口縁部外傾、内・外面撫で、口縁端部箆押さえ。底部: 平底、内面撫で、外面回転箆削り。脚部:欠損。		
25	H-9-1 床直	坏 土師器	1	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面 篦削り。		
26	H-9-2 床直	坏 土師器	1	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部:外傾から外彎、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面 篦削り。		
27	H-9-3 埋土	坏 須恵器	② 3.5	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、 外面底部手持ち箆削り、外面端部回転箆削り。		
28	H-9-4 埋土	甕 土師器	② (4.7)	①細粒②良好 ③橙色④口縁破片	口縁部:器最大径、大きく外傾、内・外面横撫で後外面横箆削り。胴部 上位:内面撫で、外面横箆削り。		
29	H-9-5 埋土		② (5.7)	色④口縁破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面縦箆削り。		
30	H-10-1 床直	本 土師器	<u> </u>	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面 篦削り。		
31	H-10-2 床直	- 坏 - 土師器		①細粒②良好 ③にぶい橙色④4/5	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面 箆削り。		
32	H-10-3 床直	上師器	ļ	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁部:外傾、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。		
33	H-10-4 床直	-	② (2.9)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:短く外傾、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面 篦削り。		
34	H-10-5   埋土	高台椀 須恵器		①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で、口縁端部箆押さえ。底部: 内面撫で、外面回転箆切り。高台部:削り出し高台、やや外傾、内・外 面撫で。	l .	3面線
35	H-11-1 埋土	坏 土師器	① 11.8 ② 4.0	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		
36	H-11-2 床直	坏 土師器	① 10.8 ② 3.3	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部:短く外傾、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		
37	H-11-3 床直	坏 土師器	① 11.2 ② 3.8	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部:短く内傾、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。		
38	H-11-4 埋土	坏 土師器	② (4.1)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。		
39	H-11-5 埋土	-	② (3.0)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部:短く直立気味、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、 外面箆削り。底部に粘土付着。		
40	H-11-6 埋土	1	② (3.3)	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、 外面手持ち箆切り。		
41	埋土	須恵器	② (3.9)	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内・外面撫で。高台部:削り出し高台。	外面い 焼成	ゝぶし
42	H-11-8 埋土		② (5.5)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面斜め箆削り。 底部:欠損。	-	
43	H-11-9 埋土	須恵器	② (12.7)		轆轤整形。口縁・頸部:欠損。体部:上位に器最大径を持ち、内・外面 撫で。高台部:大きく外傾する角高台、内・外面撫で。	外面」 然釉	<u>-</u> 位自
44	H-12-1 床直		② (3.3)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁・体部:湾曲しながら立ち上がり端部外傾、内・外面横撫で。底部: 平底、内面撫で、外面箆削り。		
45	H-12-2 床直	坏 土師器		①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁・体部:湾曲しながら立ち上がり端部直立気味、内・外面横撫で。 底部:平底気味、内面撫で、外面箆削り。		

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
46	H-13-1 床直	坏 土師器		①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部:短く直立気味、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面 箆削り。	
47	H-13-2 埋土	蓋	① —	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。天井部:水平気味、外面回転箆削り。摘み:環状摘み。	
48	H-13-3 埋土	坏	① [12.6]	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、 外面手持ち箆削り。	内面自然釉
49	H-13-4 埋土		1 7	①細粒②良好 ③灰色④底部破片	轆轤整形。口縁・体部:欠損。底部:内・外面撫で、回転箆削り後付け 高台。高台部:わずかに外傾する角高台。	
50	H-13-5 床直	短頸壺	① [ 9.8]	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁部:直立から端部短く外反、内・外面撫で。胴部:中位 に器最大径を持ち、内・外面撫で。底部:欠損。	
51	H-13-6 床直	甕 土師器		①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面斜め箆削り。	
52	H-13-7 床直			①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部上位:内面撫で、外面斜め箆削り。	
53	H-14-1 埋土	坏 土師器	1 = = =	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	口縁部:短く内傾、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
54	H-14-2 床直	坏 土師器	1	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
55	H-14-3 埋土	1		①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部:大きく外傾、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆 削り。	
56	H—14— 4 床直	蓋 須恵器		①細粒②良好 ③灰白色④1/6	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、弱い返り有。摘み:環状摘み。	
57	H-14-5 埋土	高台椀 須恵器	1	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:内面撫で、外面回 転箆削り。高台部:削り出し高台。	
58	H-14-6 床直		① 8.4 ② (8.6)	①細粒②良好③にぶ い黄橙色④口頸部	口縁部:短く内傾、内・外面横撫で。頸部:ほぼ直立、内面撫で、外面 斜め箆削り。体部:欠損。	
59	H-14-7 床直	1	1	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤整形。口縁部:外反、端部に返し有、内・外面撫で。頸部:ほぼ 直立、内・外面撫で。体部:欠損。	
60	H-15-1 床直	坏 土師器		①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
61	H-15-2 床直	蓋 須恵器	1	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤整形。天井部:水平気味から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面 撫で、返り有。摘み:欠損。	
62	H-16-1 埋土	坏 土師器	0 2	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
63	H-16-2 埋土	坏 須恵器	① 12.0 ② 3.8	①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、 外面手持ち箆削り。	
64				①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:内面撫で、外面手 持ち箆削り。高台部:削り出し高台。	
65	H-17-1 埋土	坏 土師器	1 7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	
66	H-18-1 床直	坏 土師器	① 12.6 ② 3.1	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部:直立気味、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面 篦削り。	
67	H-18-2 床直	坏 土師器	1	①細粒②良好③にぶい 赤褐色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
68	H-18-3 埋土	坏 土師器	① [13.8] ② (2.7)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:外傾、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
69	H-19-1 床直	坏 土師器	① 12.2 ② 3.6	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削 り。	
70	H-19-2 床直	坏 土師器	① 13.7 ② 4.0	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部:直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。	
71	H—19— 3 床直	坏 土師器	1:	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部:直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。	
72	H-19-4 床直	蓋 須恵器	1 7 7	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、返り有。摘み:欠損。	外面自然和
73	H-19-5 床直	坏 須恵器	1	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:欠損。	
74	H-19-6 床直	土師器	② (15.6)	①細粒②良好③にぶい 橙色④ほぼ完形	口縁部:外彎気味、内・外面横撫で。胴部:中位に器最大径を持ち、内 面撫で、外面斜め箆削り、外面下位に煤付着。台部:大きく外傾。	
75	H-19-7 床直		① 22.0 ② 31.7	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:中位やや上で膨らみ下位ですぼむ、内面撫で、外面斜め箆削り。底部:平底。	

遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
H-20-1	坏	① [15.0]	①細粒②良好	口縁部:短く内湾気味、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面	
床直				篦削り。	
H-20-2 埋土			10	口縁部:短く内湾気味、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面 篦削り。	
H-20-3 床直	坏 土師器	1		口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削り。	
H-20-4 床直	坏 土師器			口縁部:短く直立気味、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面 箆削り。	
H-20-5 埋土	蓋須恵器		0.1	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、 弱い返り有。摘み:欠損。	
H-20-6 床直	坏 須恵器			轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、 外面回転箆削り。	
H-20-7 床直		-	①細粒②良好③橙色 ④口縁破片と底部	口縁部:外傾で端部わずかに直立、内・外面横撫で。胴部上位・下位: 内面撫で、外面斜め箆削り。底部:平底。	
H−20−8 床直	変 土			口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面斜め箆削り。 底部:欠損。	
H-21-1	坏	① 11.4	①細粒②良好	口縁部:短く内彎、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削	-
H-21-2	坏	① 11.6	①細粒②良好	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削	
H-21-3	坏	① 11.4	①細粒②良好	口縁部:短く直立、内・外面機撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削	
H-21-4	坏	① 17.2	①細粒②良好③明赤	口縁部:外傾、内・外面横撫で。底部:浅い丸底、内面撫で、外面箆削	
H-21-5	蓋	16.8	①細粒②良好	轆轤整形。天井部:緩やかに外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、	
H-21-6	蓋	18.0	①細粒②良好	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、	
H-21-7	蓋	18.3	①細粒②良好	轆轤整形。天井部:水平から外傾、外面回転箆削り、端部内・外面撫で、	
H-21-8	坏	① 13.8	①細粒②良好	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、	
H-21-9	坏	① 12.8	①細粒②良好	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で、	
H-21-10	坏	① [13.2]	①細粒②良好		体部側面線刻
H-21-11	高台椀	16.5	①細粒②良好	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で、口縁端部箆押さえ。底部: 平底 内面撫で 外面回転窓削り 高台部・削り出し高台	
H-21-12	丸底甕	① 16.7	①細粒②良好③にぶい	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面斜め箆削り。底	
H-21-13	丸底甕	① [15.4]	①細粒②良好	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:中位やや上に器最大径を持ち、	
H-21-14	長胴甕	① 22.6	①細粒②良好	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面斜め箆削り。底	
H-21-15	長胴甕	① 22.2	①細粒②良好③にぶい	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面斜め箆削り。底	
H-21-16	甕	① [15.4]	①細粒②良好	口縁部:緩やかに外傾、内・外面横撫で、器最大径。胴部:内面撫で、	<u> </u>
H-21-17	大 甕	1 28.0	①細粒②良好③黄灰色	轆轤整形。口縁部:外頃から端部外反、返し有、内・外面撫で。胴部上	自然釉
H-22-1	坏	① [11.6]	①細粒②良好	口縁部:短く直立、内・外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面箆削	
H-23-1	坏	① [13.3]	①細粒②良好	口縁部:直立、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。底部:丸底、内面	
W-1-1	坏	① [15.4]	①細粒②良好	轆轤整形。口縁・体部:外傾、内・外面撫で。底部:平底、内面撫で。	外面自然釉
W-1-2	甕	① [23.1]	①細粒②良好	口縁部:外傾、内・外面横撫で。胴部:内面撫で、外面箆削り。底部:	
休息 W-1-3	壺	① 13.4	③橙色④3/4 ①細粒②良好 ③灰白色④5/6	轆轤整形。口縁部:外彎、内・外面撫で。体部:中位やや上に器最大径を持ち、上位撫で、下位内面青海波状文、外面平行叩き目文。底部:丸	i
	床直 H-20-2 H-20-3 床位 H-20-5 埋土 H-20-6 R-20-7 保定 H-21-1 R-21-3 R-21-3 R-21-4 H-21-5 H-21-6 H-21-6 H-21-7 H-21-16 H-21-17 R-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-10 H-21-11 H-21-10 H-21-11 H-21-10 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11 H-21-11	H-20-1       大師器         H-20-2       土地环鄉         H-20-3       土坑环鄉         H-20-4       土坑环鄉         H-20-5       須長田         H-20-6       須長田         H-20-7       長土馬         H-21-1       土ヶ底         H-21-1       土ヶ底         H-21-2       土地环鄉         H-21-3       土地环鄉         H-21-4       土葱東         H-21-5       須須須須須須須須須須須須高濃         H-21-8       須須須須須須須高点         H-21-9       東京         H-21-10       東京         H-21-11       東京         H-21-12       土長土野郎         H-21-13       土上長北         H-21-14       土長土         H-21-15       大須田         H-21-16       土井         H-21-17       大須田         H-21-18       土長         H-21-19       土地         H-21-17       大須田         H-21-18       土野師         H-21-17       大須田         H-21-18       土野師         H-21-19       土野師         H-21-10       大瀬田         H-21-11       大須田         H-21-12       土地 <t< td=""><td>H−20−1 上師器 ② (4.0) H−20−2</td><td>  H - 20 - 1</td><td>  1-20-1   末部   20   15-0   20   20   20   20   20   20   20  </td></t<>	H−20−1 上師器 ② (4.0) H−20−2	H - 20 - 1	1-20-1   末部   20   15-0   20   20   20   20   20   20   20

番号	遺構番号/層位	器種 ①口径②器高		①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
106	X 92 Y 98	— 緑 釉	_	①細粒②良好③オリー ブ灰色④破片	内面に緑釉。	内面緑釉
107	X77 Y99	高台椀 灰 釉	~		轆轤整形。口縁・体部:大きく外傾、端部欠損。底部:内面撫で、外面 回転箆切り後付け高台。高台部:外傾する角高台。	灰釉

- (注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
  - ②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を( )、復元値を [ ] で示した。
  - ③胎土は、細粒 (0.9 mm以下)、中粒  $(1.0 \sim 1.9 \text{mm以下})$ 、粗粒 (2.0 mm以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
  - ④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
  - ⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

番号	遺構・層位	器	種	最大長	最大幅	最大厚	重き	依	存度	備考
1	H-6 · 床直	環状金具		(6.2)	(0.4)	(0.5)	6.0	破	片	
2	H-7・床直	止め	金具	(2.5)	(0.5)	(0.2)	1.0	破	片	
3	H−9 • 床直	鉄	鏃	(4.5)	(0.8)	(0.3)	3.8	先	端部	
4	H−14・床直	銵	Ŕ	(5.0)	(2.1)	(0.1)	12.0	破	片	
5	H−20・床直	刀子	刃部	(6.0)	(0.9)	(0.2) 15.2	**	破	片	柄部に木質付着
	11-20・水區	711	柄部	(7.8)	(1.2)	(0.3)		14).	л	173印作小貝刊有
6	H-21 ⋅ 床直	金	J	(5.8)	(0.3)	(0.4)	7.5	破	片	

- (注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。
  - ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 9 石製品観察表

番号	遺構・層位	器	種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石	材	依有	度	備	考
1	H-7・床直	臼	玉	1.4	1.4	0.7	2.0	滑	石	完	形		
2	H-14・埋土	砥	石	8.4	5.3	4.5	240.0	凝り	天 岩	不	明		
3	H-16 · 床直	砥	石	5.4	3.9	2.0	75.0	凝り	死 岩	不	明		
4	H-23·床直	砥	石	7.4	3.0	3.5	53.0	凝力	反 岩	不	明		

- (注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。
  - ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.10 出土古銭一覧表

番号	遺構・層位	名	称	材	年	代	初鋳年	種類	備	考	
1	X64、Y99	嘉祐通宝	(篆)	銅	北宋	嘉祐元年	1056	渡来銭			
2	X64、Y99	治平元宝	(篆) カ	銅	北宋	治平元年	1064	渡来銭			
3	X64、Y99	熈寧元宝	(真)	銅	北宋	熈寧元年	1068	渡来銭			

Tab.11 瓦観察表

番号	遺構番号/層位	器種	①長さ②厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備	考
1	W-1-1 埋土	軒丸瓦	_	①細粒②良好 ③灰白色④瓦当のみ	瓦当面をほぼ完全に留め、径16.6cm、素文周縁で幅0.4cm~0.8cm。弁 区径12.0cm、重弁8葉連華文、周縁に16個・中房に1+5個の竹管による刺突文有。瓦当側面に斜格子叩き目痕、瓦当裏面に有絞り布目痕有。		
2	W-1-2 床直	軒丸瓦	_	①細粒②良好 ③灰色④瓦当破片	素文周縁で幅0.8mm。花弁先端部わずかに残存。		
3	W-1-3 床直	軒平瓦		①細粒②良好 ③灰色④瓦当破片	偏行唐草文、断面が弱い三角形になる顎。凹面:わずかに布目が残り、 瓦当部横箆削り、側面面取り 2 回。凸面:箆削り。		
4	W-1-4 床直	軒平瓦		①細粒(砂粒含む)②良好 ③青灰色④瓦当破片	段顎。凹面:布目有。凸面:撫で。		
5	W-1-5 埋土	軒平瓦		①中粒(砂粒多く含む) ②良好③灰色④瓦当破片	三重廓文。瓦当側面で曲線顎になるが、中央部は無顎に近い。瓦当反対側の上半分に布目有。凹面:わずかに布目有、箆削り、側面面取り 2回。凸面:縄叩き後撫で。		
6	W-1-6 埋土	軒平瓦	1	①細粒②良好 ③灰色④瓦当破片	三重弧文。無顎。顎部下位の貼り付け部上面に縄叩き目痕有。凹面: わずかに布目が残り、瓦当部撫で、側面面取り1回。凸面:横箆削り 後横撫で。		
7	W-1-7 床直	平 瓦		①細粒②良好③にぶい黄 橙色④破片	桶巻き作りか。凹面:わずかに布目有、撫で。凸面:平行叩き目痕有、 撫で。側面:面取り 2 回。		
8	W-1-8 埋土	平瓦	10	①細粒②良好 ③暗灰色④破片	一枚作りか。凹面:布目有。凸面:横撫で。側面:面取り3回。		
9	W-1-9 埋土	平瓦		①細粒②良好 ③暗灰色④破片	一枚作り。全面カーボン付着。凹面:糸切り痕有、撫で。凸面:縄叩き目痕有。側面:面取り2回。		
10	W-1-10 埋土	平瓦	10 ( /	①細粒②良好 ③灰色④破片	桶巻き作り。凹面:模骨痕有。糸切り痕有、わずかに布目が残り、撫 で。凸面:撫で。側面:面取り2回。		
11	W-1-11 埋土	平瓦		①細粒②良好 ③灰白色④破片	一枚作り。凹面:糸切り痕有、布目が残り、撫で。凸面:縄叩き目痕 有。側面:上位に布目が残り面取り1回。		
12	W-1-12 埋土	平 瓦	10	①細粒②良好 ③灰色④破片	凹面:布目有、撫で。凸面:正格子叩き目文、撫で。		
13	W-1-13 床直	平瓦		①細粒(砂粒含む)②良好 ③にぶい褐色④破片	凹面:布目有。箆書き文字有。凸面:撫で。	箆書	き文字

<sup>(</sup>注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を ( )、復元値を [ ] で示した。 ③胎土は、細粒 (0.9mm以下)、中粒 (1.0~1.9mm以下)、粗粒 (2.0mm以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は瓦外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

## VI 考 察

本調査区は、南北約8m、東西約140mの道路建設予定地である。ここは、推定国府域の北西、推定国分尼寺南 築垣より約80m南に位置する。

本調査区の地層は、現耕作土下に $10\sim20$ cmの As-B 混土層があり、西側の方が厚めに堆積している。さらに、その下に As-C・Hr-FP を含む暗褐色土が約40cm堆積し、地山に移行する。しかし、地山はX86辺りで様相が変わり、東側はローム層で西側は黒褐色粘質土になる。旧地形を想像すると、X86より東側は高く、西側は低かったようである。

調査の結果、竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡 1 棟、溝跡 6 条、土坑墓 2 基、土坑22基、柱穴66基が検出された。ここでは、元総社蒼海遺跡群での従来の様式に従い、 I 期 (~ 7 世紀前半:律令期以前)、 II 期 (7 世紀後半~10 世紀初頭:律令期)、III 期 (10世紀初頭~:律令期以後)の 3 期に、検出された遺構を区分し考察していきたい。

#### 1 本遺跡の遺構について

本調査区で、時期の限定できる遺構について下の表にまとめてみた。

Tab.12 時期別の遺構数

1 40.12							
E	<b>芽</b> 其	в	遺		構		合計
į p	f A	H	竪 穴 住 居 跡	掘立柱建物跡	溝 跡	その他	
I期	~ 7 世紀	己前半	J-1 · 2			D-21	3
	前半				-		
	7世紀	中頃					
		後半	$H - 6 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 10 \cdot 18 \cdot 19 \cdot 23$			D-18	8
		前半	$H-7 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 15 \cdot 20 \cdot 21$	B-1			7
	8世紀	中頃	H-13 • 16				2
II期		後半			W-1 • 5		(2)
		前半	H-12				1
	9 世紀	中頃					
		後半					
III期	10世紀前	前半~			W-2 • 4 • 6	DB-1 • 2	5
É	合 計		18	1	5	4	28

I 期では、調査区東側で縄文時代竪穴住居跡 2 軒と縄文時代土坑 1 基を検出した。また、縄文時代竪穴住居跡の西側でも焼土粒が確認できたが遺構の検出には至らなかった。同じ面で As-A を集めて捨てた土坑を検出しており、後世の削平により遺構が壊されている可能性が高い。遺構確認面は As-C が混じるローム漸移層で、X86辺りから西は黒褐色粘質土に変わりローム層がなくなる。 I 期の遺構は、X86より東の、旧地形の台地部に存在していたと考えられる。

II期では、竪穴住居跡16軒・掘立柱建物跡1棟・溝跡2条・土坑1基を検出した。竪穴住居跡は7世紀後半のものが7軒、8世紀前半のものが6軒、8世紀中頃のものが2軒、9世紀前半のものが1軒である。掘立柱建物跡から遺物の出土はなかったが、W-1号溝跡に切られていることと近くの竪穴住居跡の主軸方向と比較して、8世紀前半と比定した。W-1号溝跡は、調査区北側を一直線に走行している。7世紀後半の竪穴住居跡を切っていて、As-Bが覆土になる溝跡や土坑・土坑墓に切られていることから、上限が8世紀前半で下限がAs-B降下以前と考えられる(詳細については後述)。W-2号溝跡は、調査区東端の時期不明の竪穴住居跡を囲むように走

X103 Y96

X 798 798

X84 Y100

Fig. 5 時期別の竪穴住居跡配置図

X103

X84 7100

X84 1√96

±x65 +√100 行し、W-1号溝跡を切り、他の時期不明の竪穴住居跡に切られていることから、II期の集落の区画をする溝跡と考えられる。D-18号土坑は粘土採掘抗であり、上限は確定できないが、W-1号溝跡に切られていることから、7世紀代と考えられる。

Tab.13 II期の竪穴住居跡の比較

時期	東西辺の長さ	住 居 No.	主軸方向	住居 No.	総数
7世紀後半	~ 3 m	H-8	~N-70°-E	H-19	7
	3 m∼ 5 m	$H - 9 \cdot 10 \cdot 18 \cdot 19 \cdot 23$	~N-90°-E	$H-6 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 10 \cdot 18 \cdot 23$	
	5 m∼	H—6	N−90°−E∼		
8世紀前半	$\sim$ 3 m		~N-70°-E	H—15	6
	3 m∼ 5 m	$H - 7 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 20 \cdot 21$	~N-90°-E	$H - 7 \cdot 11 \cdot 14 \cdot 21$	
	5 m∼	H—15	N-90°-E∼	H-20	
8世紀中頃	$\sim$ 3 m		~N-70°-E		2
	3 m∼ 5 m	H—13 • 16	~N-90°-E	H−13* • 16	
	5 m∼		N−90°−E∼		
9世紀前半	$\sim$ 3 m		~N-70°-E		1
	3 m∼ 5 m	H—12	~N-90°-E	H-12	
	5 m∼		N−90°−E∼		

<sup>(</sup>注) 本調査では、竪穴住居跡の全てを検出できたものが少なく、そのため、比較にあたり、竪穴住居跡の「東西辺の長さ」を使用した。

ここで、竪穴住居跡の規模と主軸方向をみてみたい。規模は東西辺 3 m代のものが多く、主軸方向は $N-80^{\circ}-E$  前後に集中する。画一的な規模と主軸方向を持つものが多いということは、国府・国分寺の創建に関わる何らかの規制があったものと思われる。なお、規模の大きな竪穴住居跡が 7 世紀後半と 8 世紀前半に 1 軒づつある。 8 世紀前半のH-15は部分的な検出のため詳しくは言えないが、 7 世紀後半のH-6 からは、 2 段透かしの 2 つある須恵器高坏や須恵器大甕を出土しており、この辺りの中心的な役割を果たしていた可能性がある。

ここでは、7世紀後半の国府形成期から人々の生活が始まる。調査区中央部で7世紀後半から8世紀前半の竪穴住居跡の重複が著しいが、これは住居跡の埋土の粘性から考えて、当時の洪水等によるものか。そして、国分寺・国分尼寺形成期の8世紀中頃、若干生活の痕跡が少なくなるようである。これは、国分寺・国分尼寺創建に伴う土地利用で、国分尼寺前面ということがあって規制が働いたためかもしれない。さらに、D-18号土坑は国分寺関連の建物や集落の中で使う粘土を採取する目的で掘られた粘土採掘抗であろう。いずれにせよ、ここでのII期の遺構は、国分寺・国分尼寺と密接な関わりを持っていると想定される。

III期では、溝跡 3 条と土坑墓 2 基を検出した。W-2 号溝跡は、この溝跡のすぐ東側にある As-B 混土層が埋土の耕作痕と主軸方向が一致することから、中世の畠跡に伴うものと思われる。W-4 号溝跡は、直線で、薬研掘りで掘られていて高低差があることから、水を流した可能性がある。土坑墓については、遺物の出土はなかったが、覆土や過年度の調査等を勘案すると中世以降のものと考えられる。なお、竪穴住居跡や掘立柱建物跡の検出が無いことから、この辺りでの、中世における土地利用制限が考えられる。

## 2 W−1号溝跡について

W-1号溝跡は、調査区北側を、東端から西端まで主軸方向N-86°-Eの直線で検出された。検出長約143.3m、上幅1.7m、深さ0.28mで、溝跡底部は多少の高低差はあるが、ほぼ平らに推移する。形状はU字形で、埋土にはAs-C・Hr-FPを含み、As-B は含まない。重複関係は、7世紀後半の竪穴住居跡を切り、As-B が埋土の溝跡や

<sup>\*</sup> H-13は、西竈であり主軸方向がN-Wになるが、最初は東竈であった可能性が高いので、主軸方向をN-Eに変換した。

土坑・土坑墓に切られている。出土遺物は、溝跡底部より8世紀前半の須恵器坏・須恵器壺・土師器甕等が出土 し、また、軒丸瓦・軒平瓦等も出土した。

このW-1号溝跡と同様なものが、過年度調査の2つの遺跡で検出されている。1つは、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が調査した元総社小見内III遺跡のW-1号溝跡で、もう1つが、群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査した上野国分僧寺・尼寺中間地域のA区第2号溝状遺構である。

元総社小見内III遺跡は、本遺跡の道路を挟んだすぐ東側に位置する。そのW-1号溝跡は、主軸方向N $-87^{\circ}-E$ のほぼ直線で、検出長約212m、上幅1.5m、深さ0.2mを測る。形状はU字形で、埋土には As-C を含んでいる。遺物は、8世紀代の須恵器が出土している。

上野国分僧寺・尼寺中間地域は、本遺跡の約200m西に位置する。そのA区第2号溝状遺構は、主軸方向N-86°-Eで、検出長約31mである。さらに、ここでは、A区第2号溝状遺構の北約11.3mのところに同じ主軸方向のB区第5号溝状遺構が検出されている。そして、中間地域では、両溝跡の併存と、道の側溝として存在した可能性が指摘されている。

本遺跡のW-1号溝跡は、重複関係や出土遺物から上限は8世紀前半を遡らないと思われ、下限はAs-B降下以前であることが指摘できる。これは、元総社小見内III遺跡のW-1号溝跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域のA区第2号溝状遺構やB区第5号溝状遺構と時期は重なる。これら3つの遺跡の偏差角約4°の溝跡は、国分寺・国分尼寺の主軸方位に合致し、時期も国分寺の時期と合致する。これらのことから、国分尼寺築垣から南約80mの所に、総延長約600mにも及ぶ、この地域を区画する溝が存在したことが指摘できる。しかし、本遺跡や元総社小見内III遺跡では、北側の溝跡や硬化面は確認できなかった。次年度以降の調査に期待したい。

## 3 瓦について

本遺跡地周辺では、山王廃寺・国府・国分寺衰退後に、そこで使われていた瓦を竪穴住居跡に持ち込んだとみられ、その時期や使われ方に統一性はみられない。今回の調査では、竪穴住居跡から瓦の出土はなかったが、W-1号溝跡から様々な瓦が出土した。

### 瓦1 (軒丸瓦)

重弁8葉蓮華文。周縁・中房に竹管による刺突文が有るが、やや単調な作り。瓦当側面に斜格子叩き目痕が 有り、上植木廃寺からも同様なものが出土している。国分寺にやや先行する。

## 瓦3 (軒平瓦)

偏行唐草文。国分寺瓦。創建期より新しい。

#### 瓦5 (軒平瓦)

三重廓文。三重弧文の模倣瓦。胎土が粗く、仕事も雑になる。瓦当反対側に布目が有り、短い瓦をたくさん 作って板状にした可能性がある。

#### 瓦6 (軒平瓦)

三重弧文。典型的な白鳳瓦。山王廃寺か。

### 瓦9 (平瓦)

破片のため詳細は摑めないが、全面カーボン付着は、国分寺創建期に多い。

# 〈参考文献〉

『前橋市史』第1巻 1971 前橋市史編さん委員会

『群馬県史』通史 2 原始古代 1991 群馬県史編さん委員会

『文化財調査報告書第13集』 閑泉樋遺跡 1982 前橋市教育委員会

『元総社明神遺跡 I ~XⅢ』 1982~1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『上野国分僧寺·尼寺中間地域』(5) 1991 群馬県埋蔵文化財調査事業団

『上野国分寺』 1988 群馬県埋蔵文化財調査事業団

『上植木廃寺』概報 1987 伊勢崎市教育委員会

『山王廃寺発掘調査概報』第2次~第7次 1976~1982 前橋市教育委員会

『元総社寺田遺跡』 I ~Ⅲ 1993~1996 群馬県埋蔵文化財調査事業団

『総社閑泉明神北遺跡』 1999 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『上野国分尼寺寺域確認調査』 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II』 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『元総社蒼海遺跡群 総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡』 2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

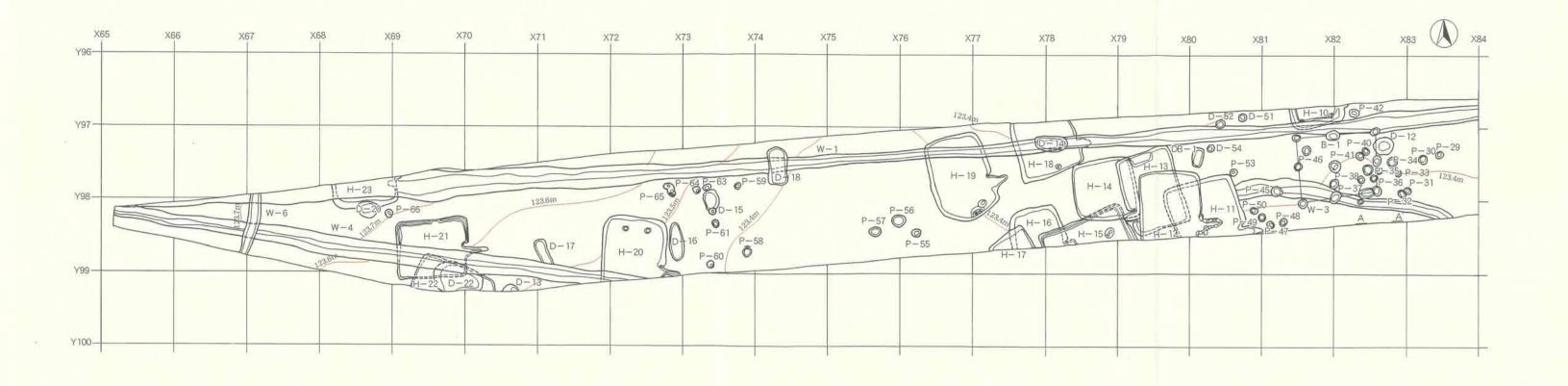
『元総社蒼海遺跡群 元総社小見内III遺跡』 2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『元総社蒼海遺跡群 元総社小見内IV遺跡』 2002 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『元総社蒼海遺跡群 総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡』 2002 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『元総社蒼海遺跡群 元総社小見III遺跡・元総社草作 V 遺跡』 2002 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『元総社蒼海遺跡群 元総社小見II遺跡』 2002 前橋市埋蔵文化財発掘調査団



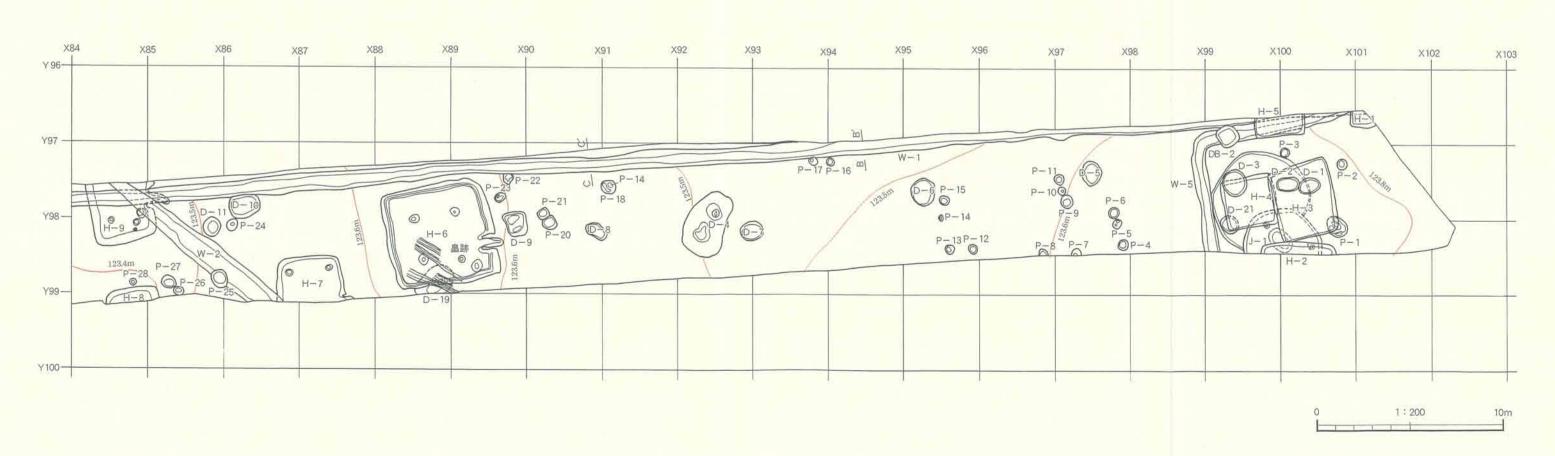
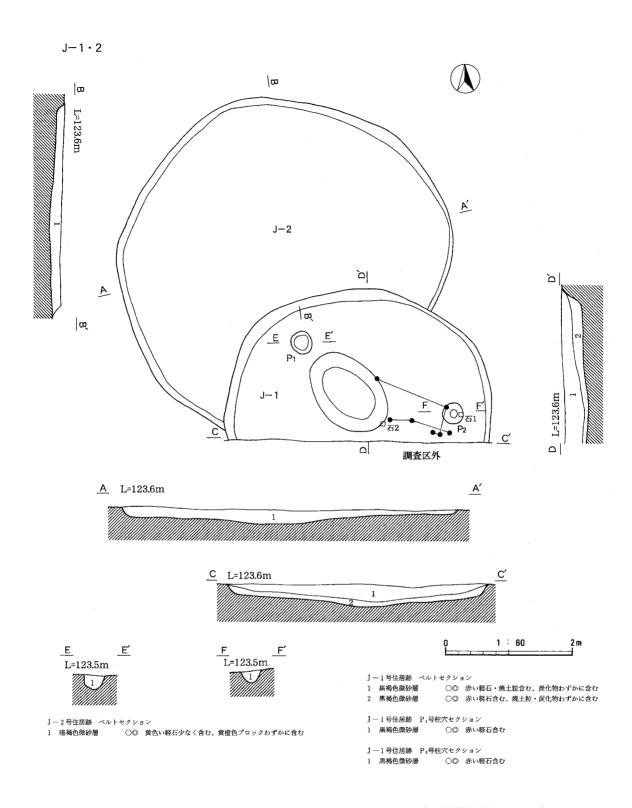


Fig. 6 元総社小見内VII遺跡全体図



 No
 形状
 長軸(cm)
 短軸(cm)
 深き(cm)
 備考

 P:
 円 形
 38
 32
 25

 P:
 円 形
 34
 30
 19.5

Fig. 7 J-1 · 2 号住居跡

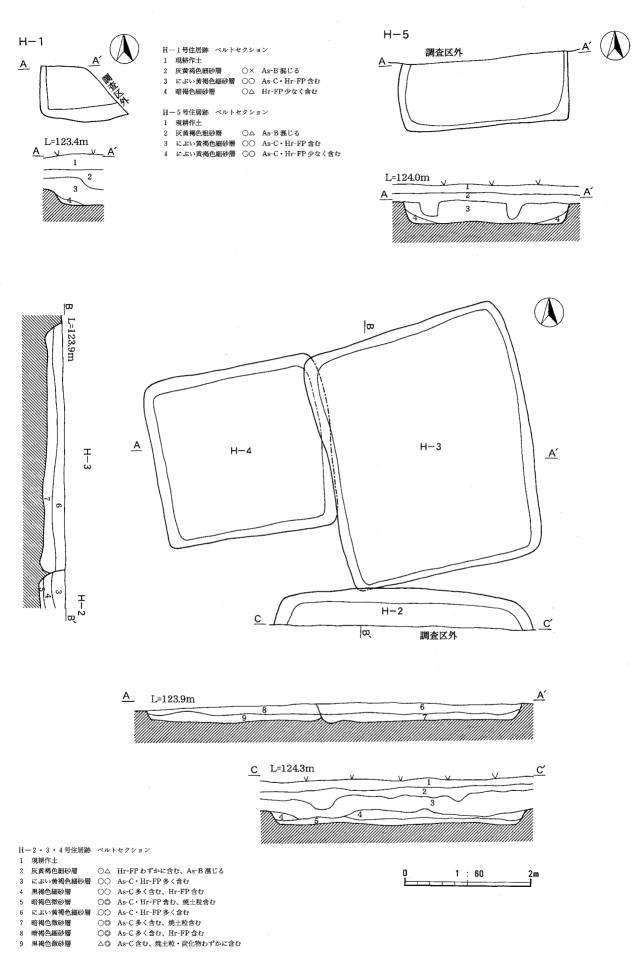


Fig. 8 H-1~5号住居跡

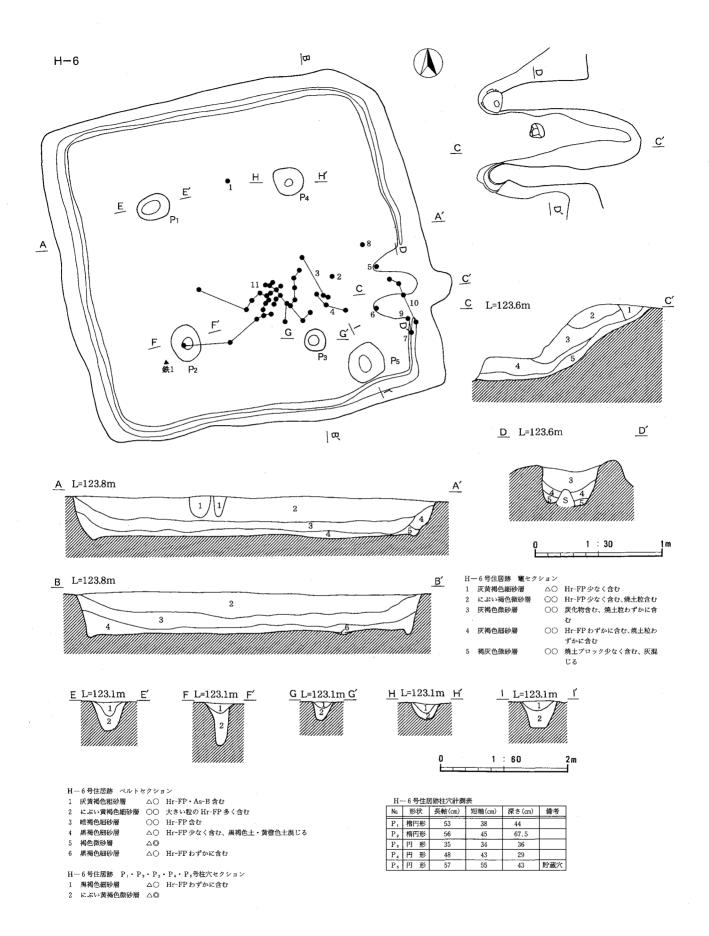
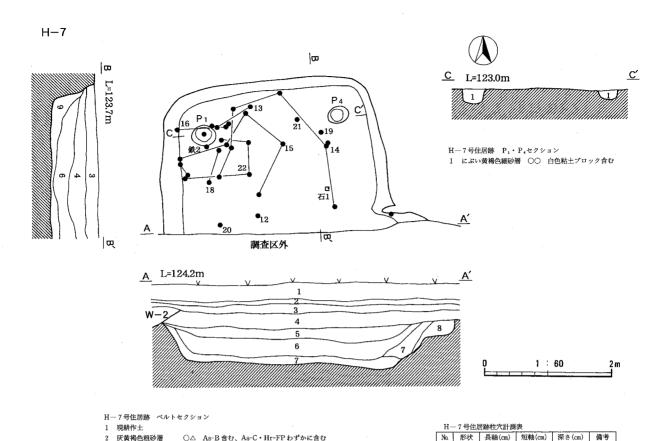


Fig. 9 H-6号住居跡



○△ As-B含む、As-C・Hr-FPわずかに含む

○○ Hr-FP 含む、炭化物わずかに含む
 △○ Hr-FP 含む、黄橙色ブロック含む、黒褐色土湿じる
 ○◎ 白色粘土ブロック含む、焼土粒・炭化物わずかに含む

○◎ Hr-FP少なく含む、焼土粒・白色粘土ブロック含む
 △◎ Hr-FP少なく含む、黄橙色粒少なく含む、焼土粒わずかに含む

○○ Hr-FP多く含む、As-C含む

○△ As-B混じる

灰黄褐色粗砂層

5 暗褐色細砂層 6 黒褐色細砂層 7 にぶい褐色微砂層

暗褐色細砂層 9 黑褐色細砂層

にぶい黄褐色細砂層

No. 形状 長軸(cm) 短軸(cm) 深さ(cm) 備考

32

27

23.5 17.5

P<sub>1</sub> 楕円形 P<sub>4</sub> 楕円形

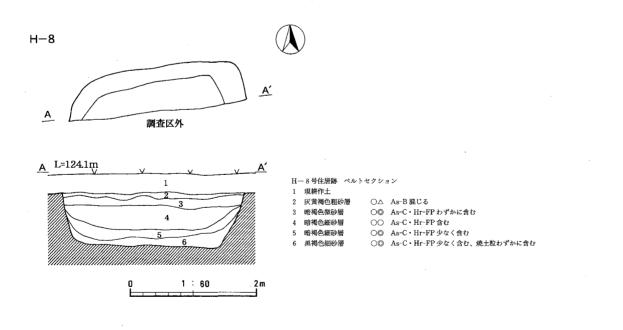
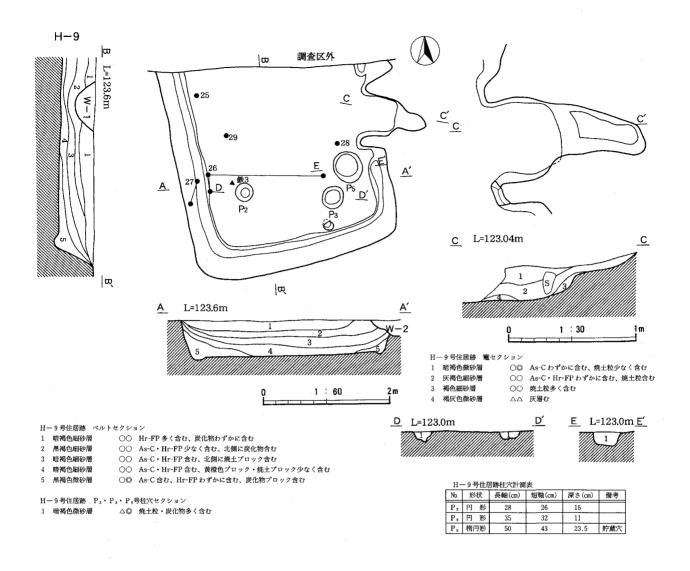


Fig.10 H-7 · 8号住居跡



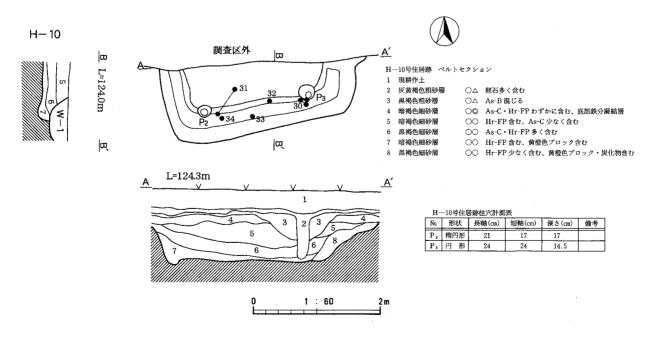


Fig.11 H-9 • 10号住居跡

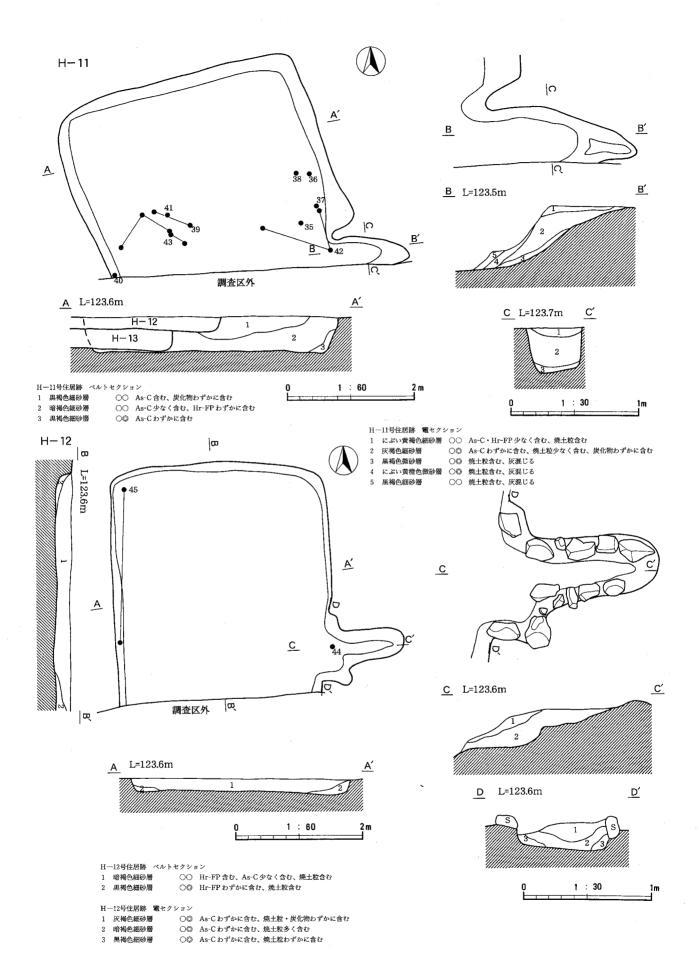


Fig.12 H-11·12号住居跡

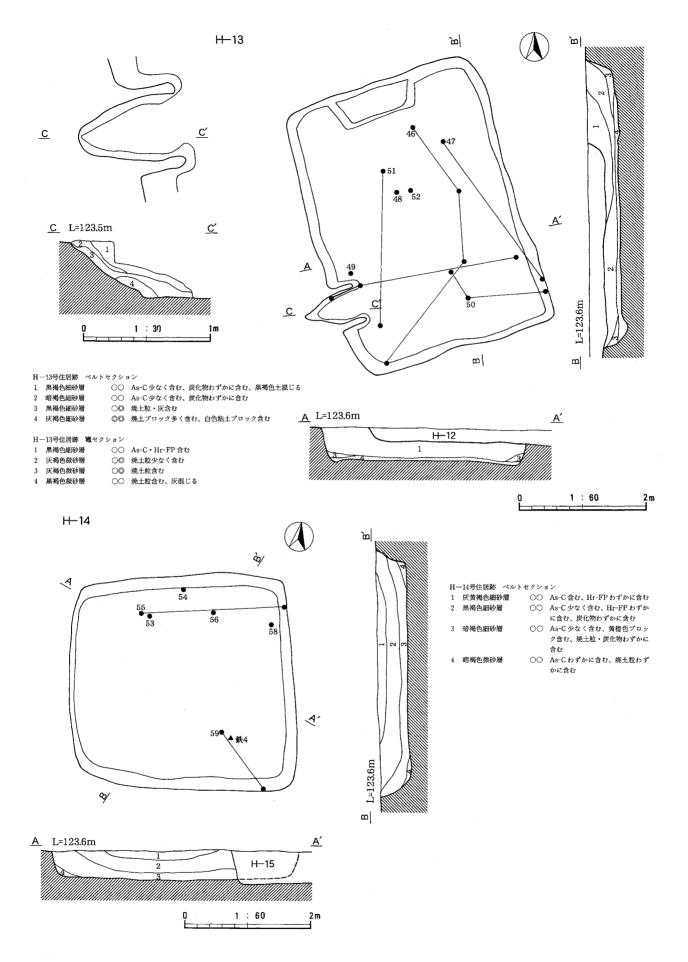


Fig.13 H-13·14号住居跡

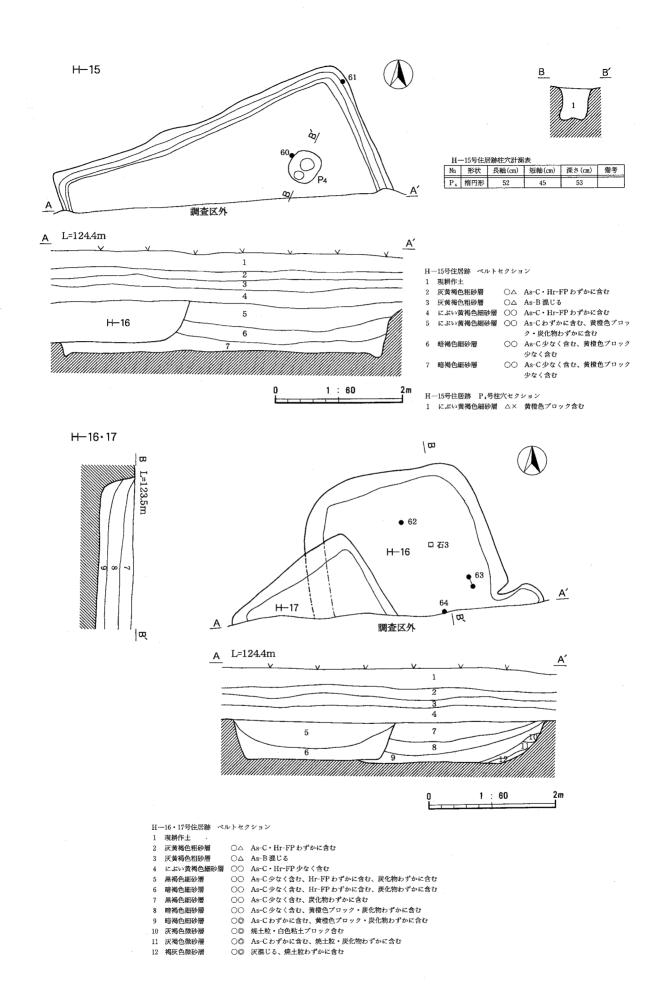


Fig.14 H-15~17号住居跡

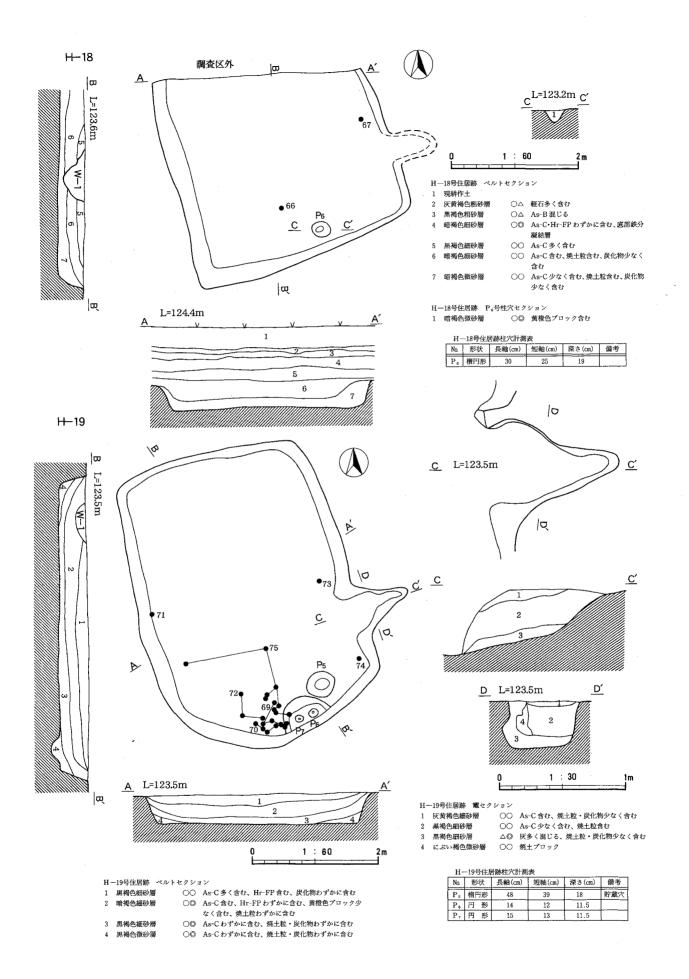


Fig.15 H-18·19号住居跡

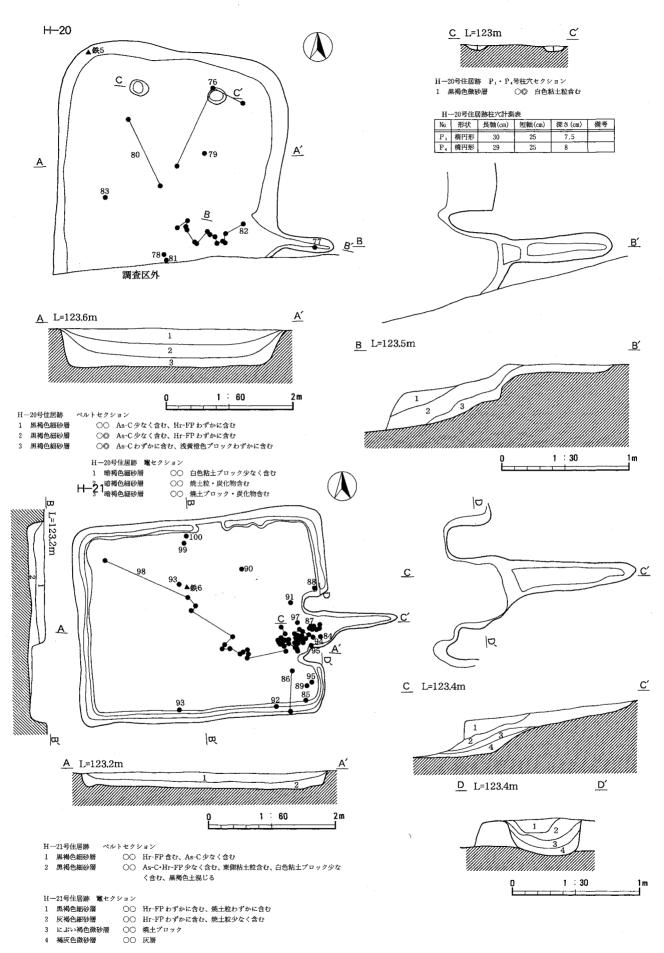


Fig.16 H-20·21号住居跡

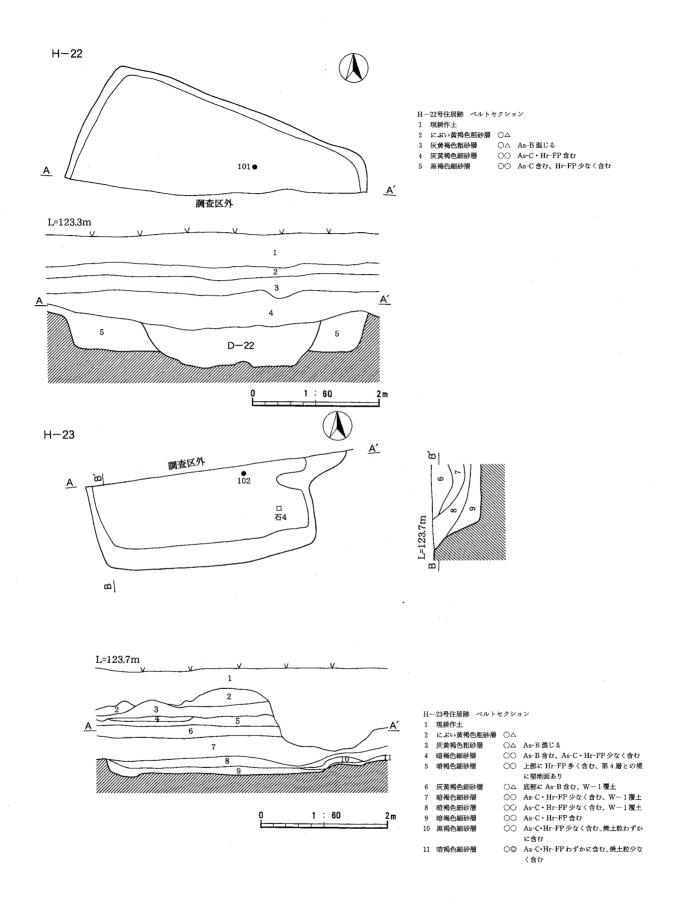


Fig.17 H-22 • 23号住居跡

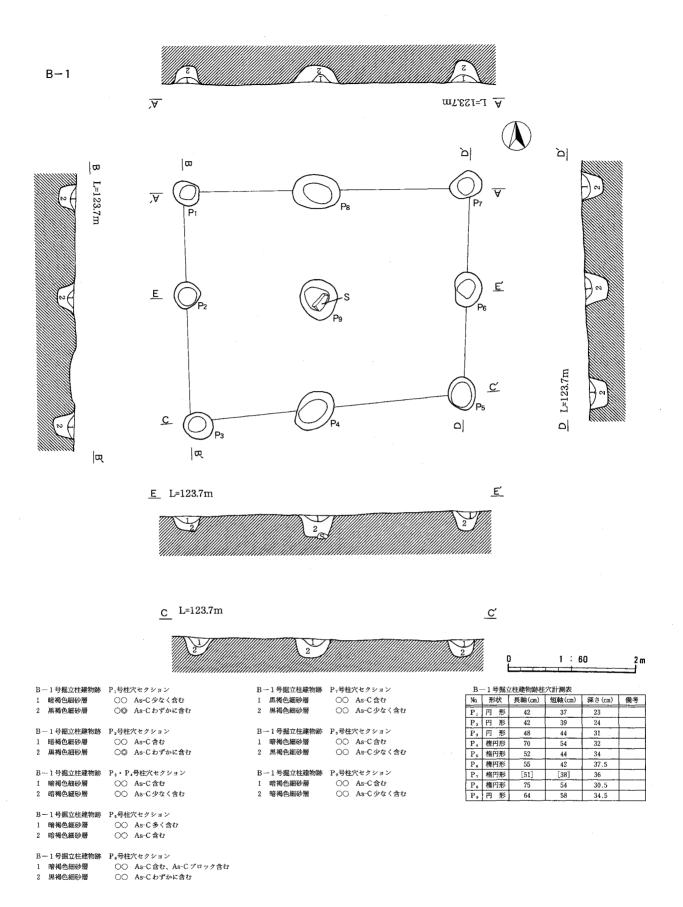


Fig.18 B-1号掘立柱建物跡

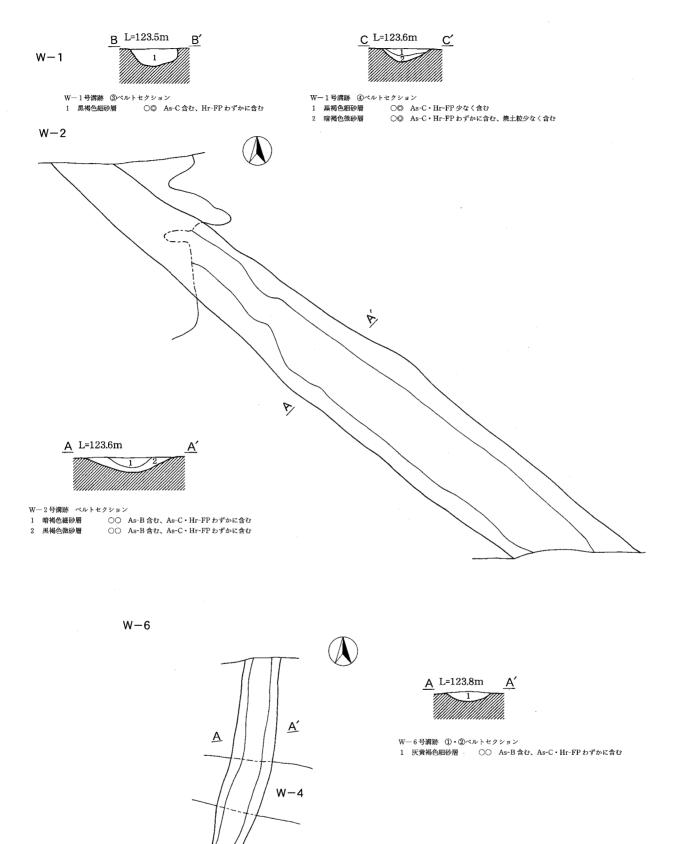


Fig.19 W-1 · 2 · 6 号溝跡

1 : 60

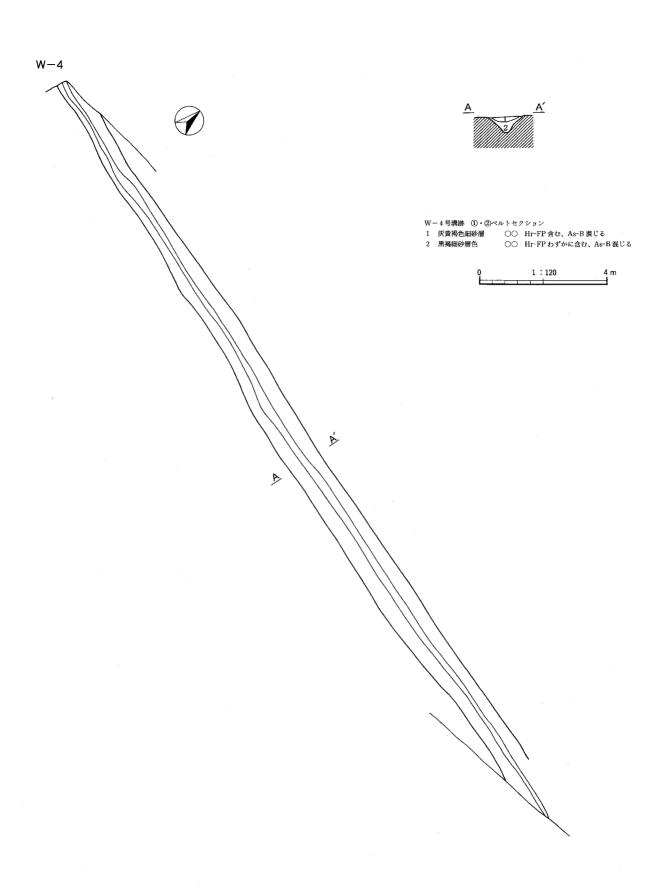
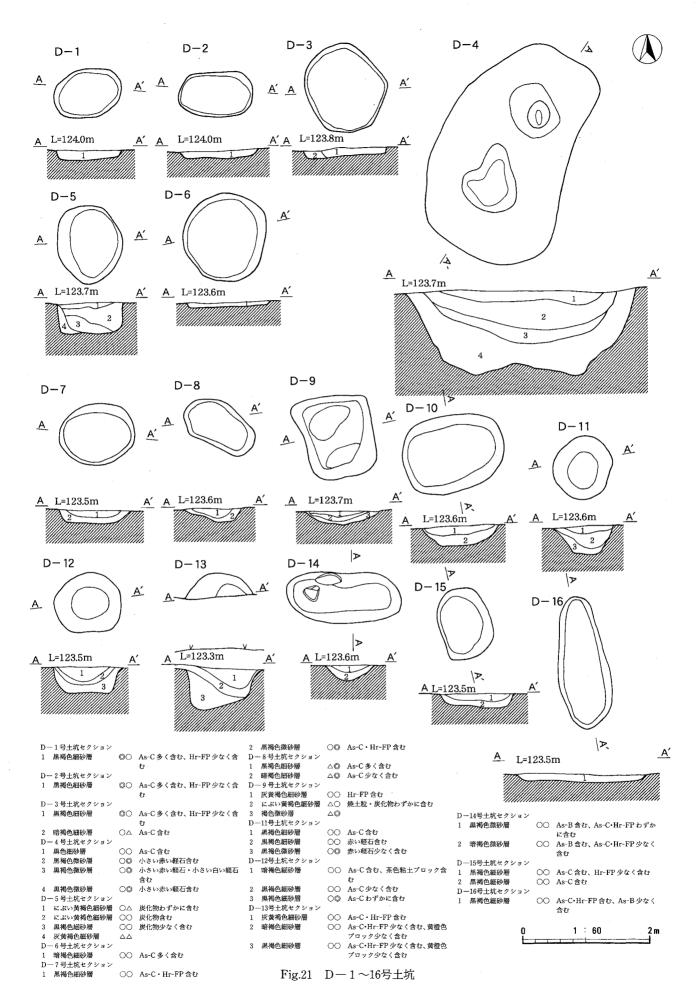


Fig.20 W-4号溝跡



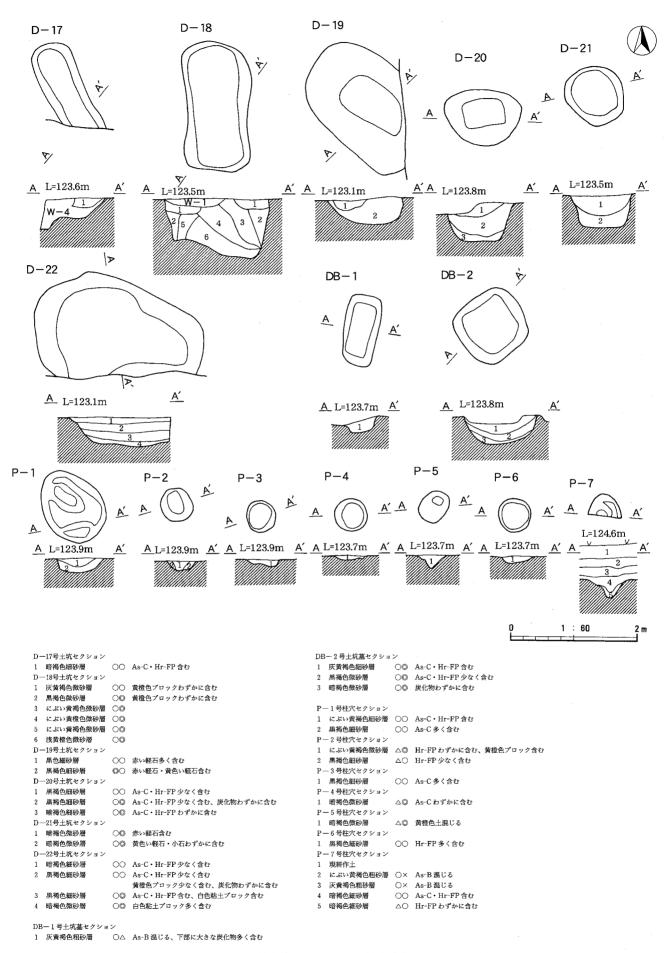


Fig.22 D-17~22号土坑、DB-1・2号土坑墓、P-1~7号ピット

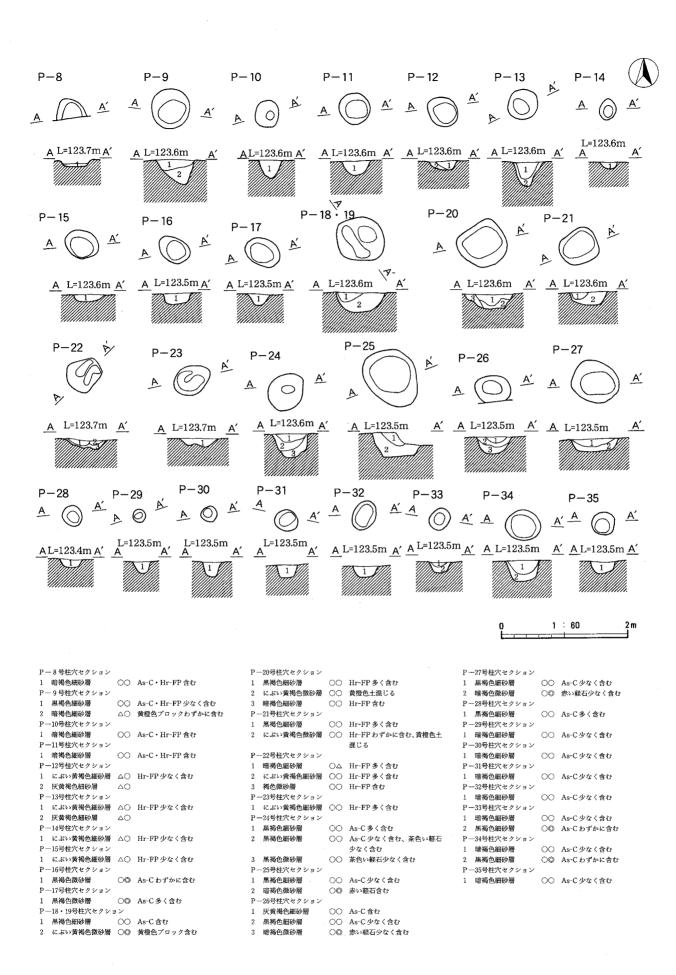


Fig.23 P-8~35号ピット

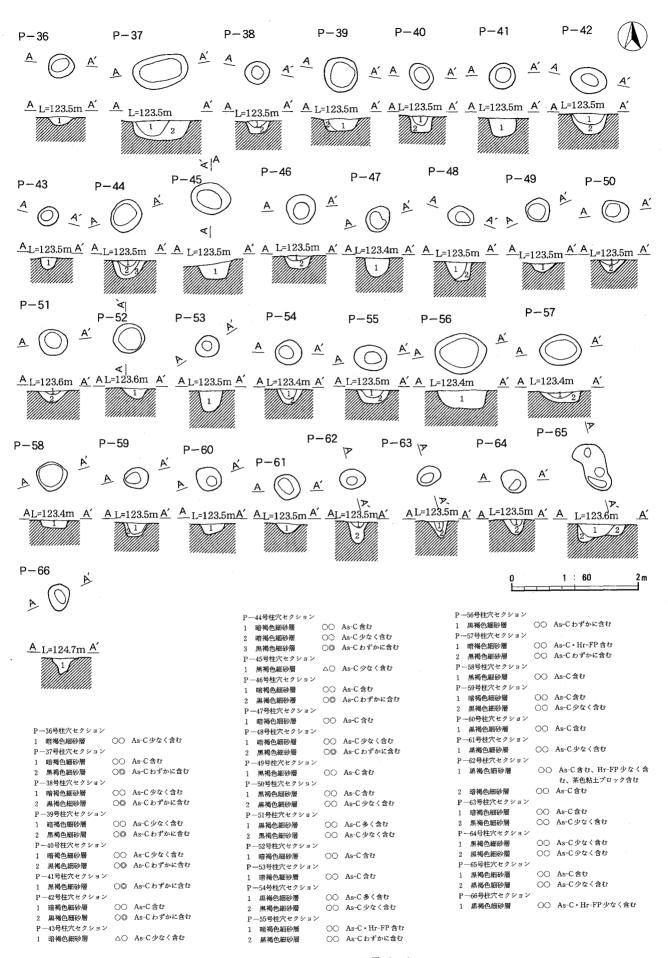


Fig.24 P-36~66号ピット

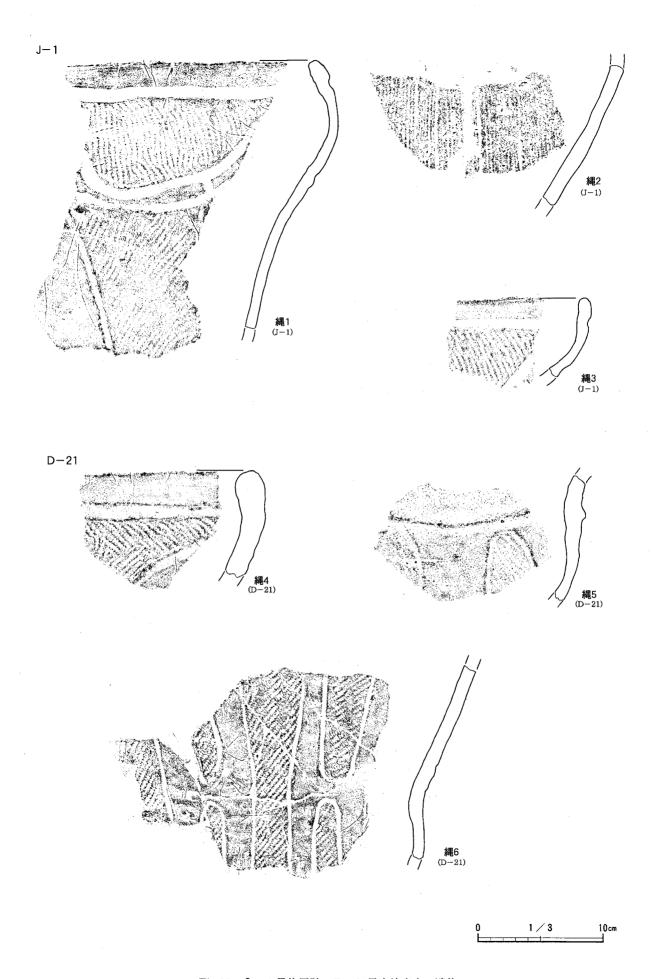


Fig.25 J-1号住居跡、D-21号土坑出土の遺物

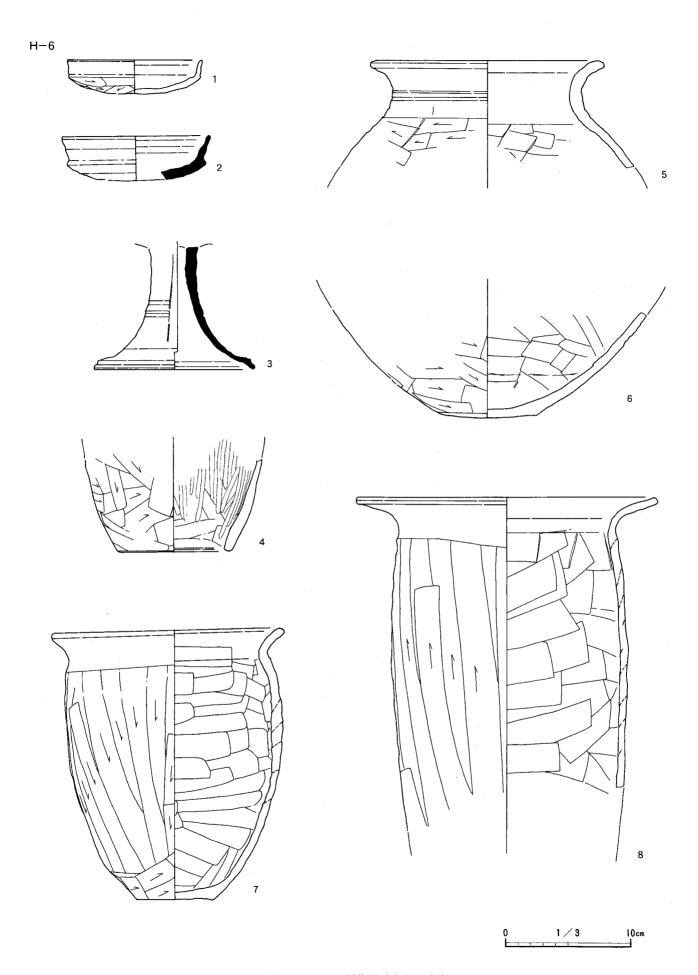


Fig.26 H-6号住居跡出土の遺物

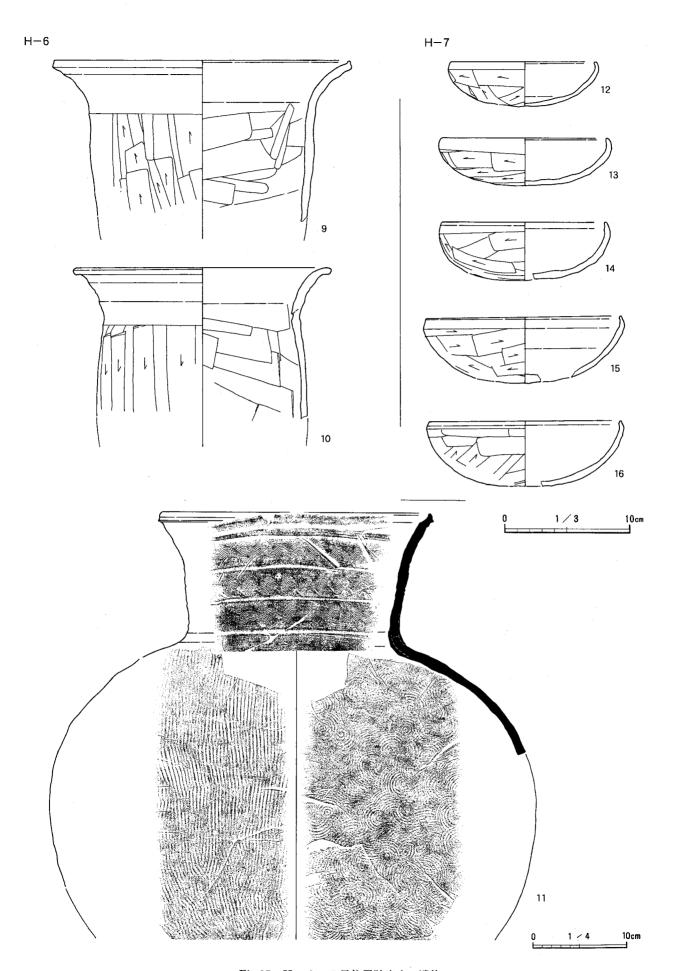


Fig.27 H-6・7号住居跡出土の遺物

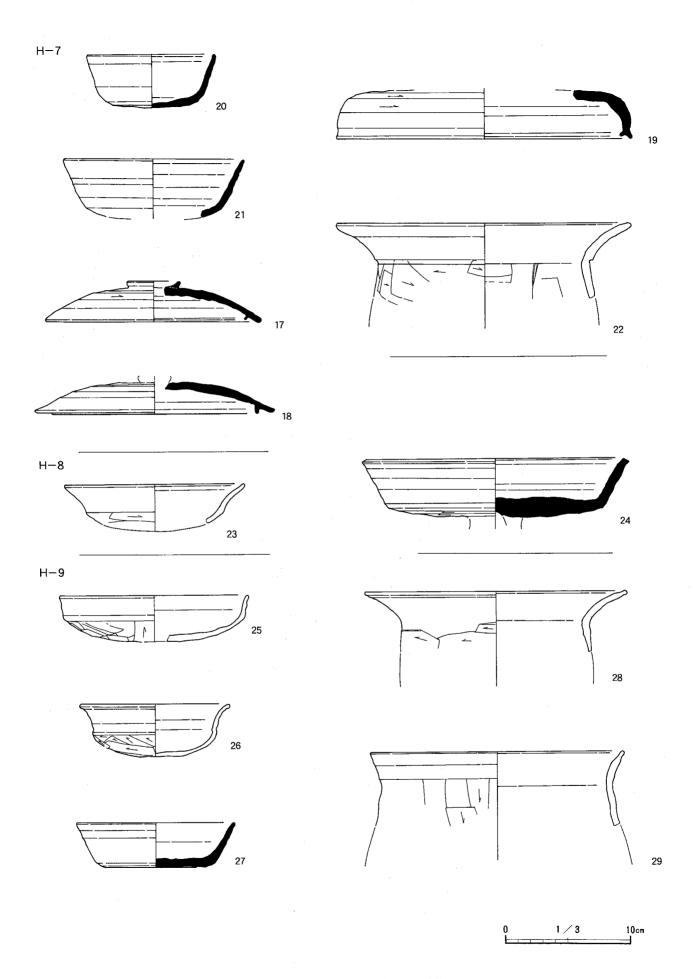


Fig.28 H-7~9号住居跡出土の遺物

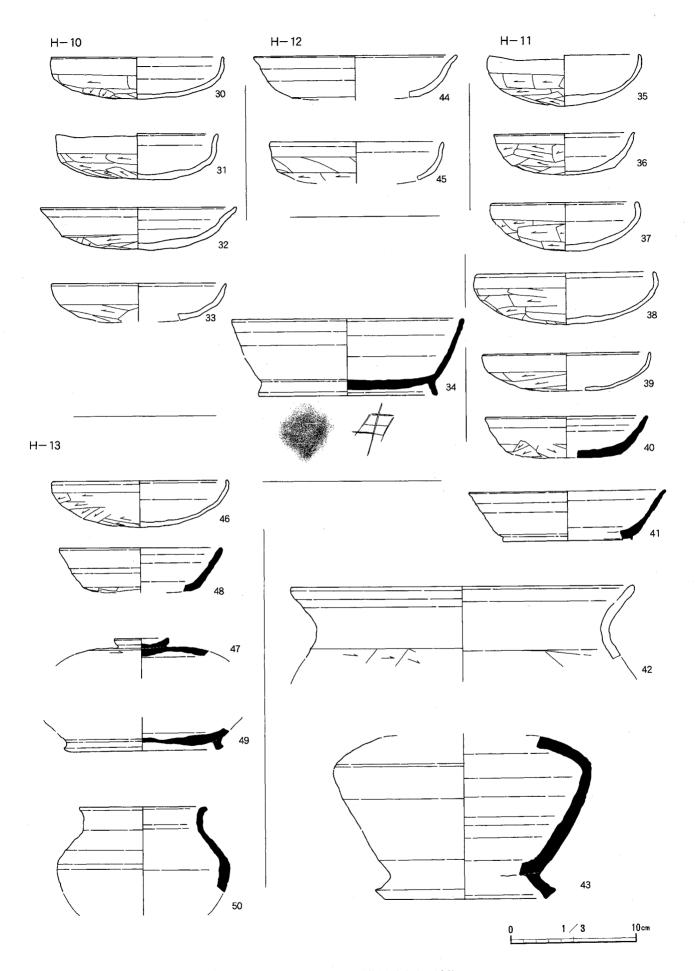


Fig.29 H-10~13号住居跡出土の遺物

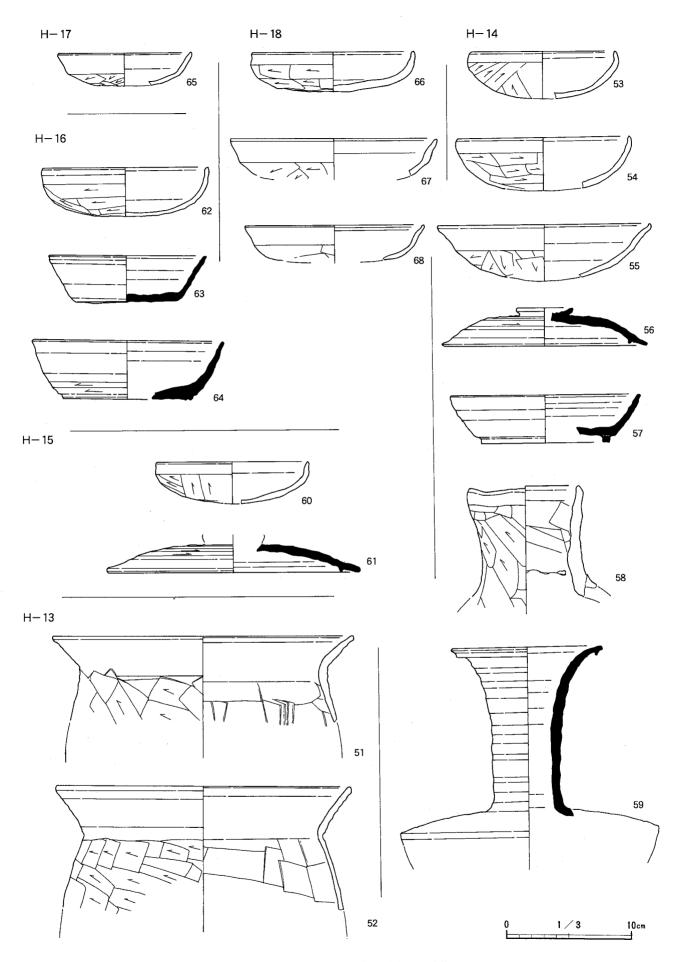


Fig.30 H-13~18号住居跡出土の遺物

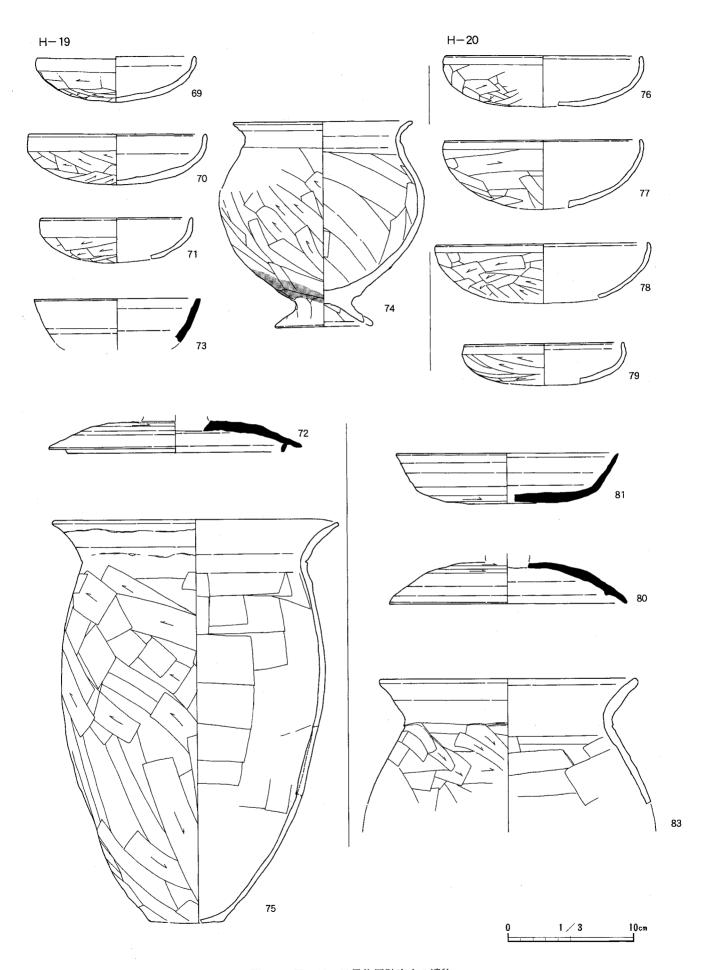


Fig.31 H-19・20号住居跡出土の遺物

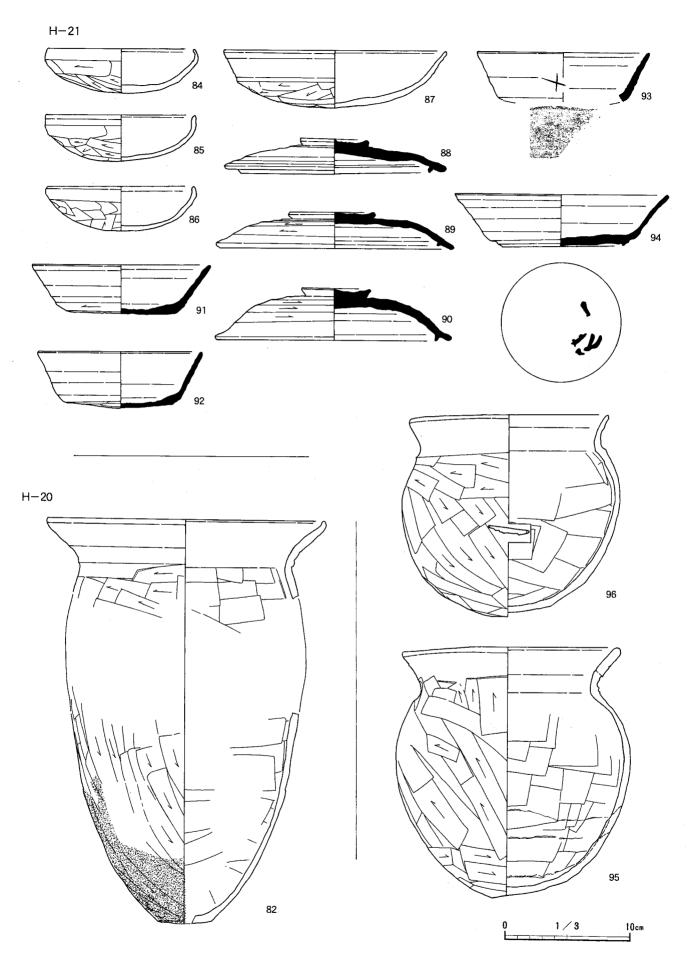


Fig.32 H-20・21号住居跡出土の遺物

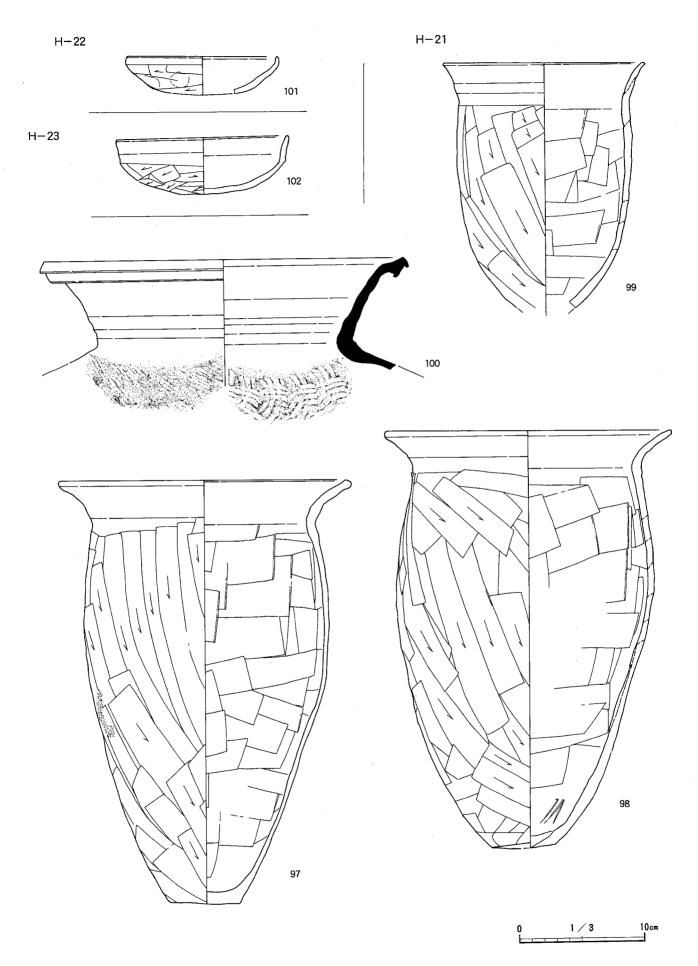


Fig.33 H-21~23号住居跡出土の遺物

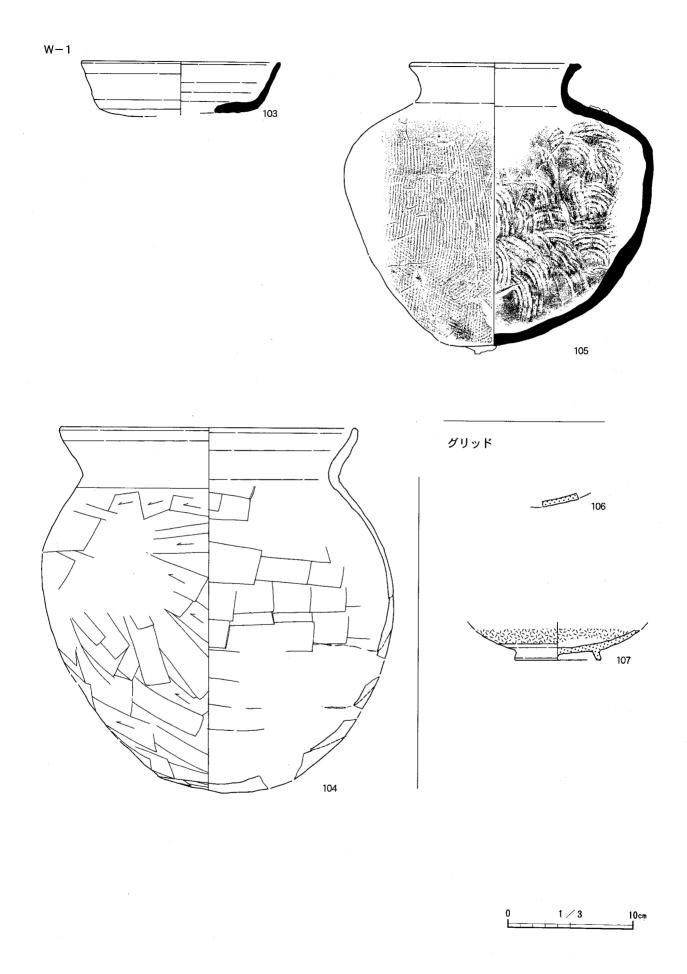
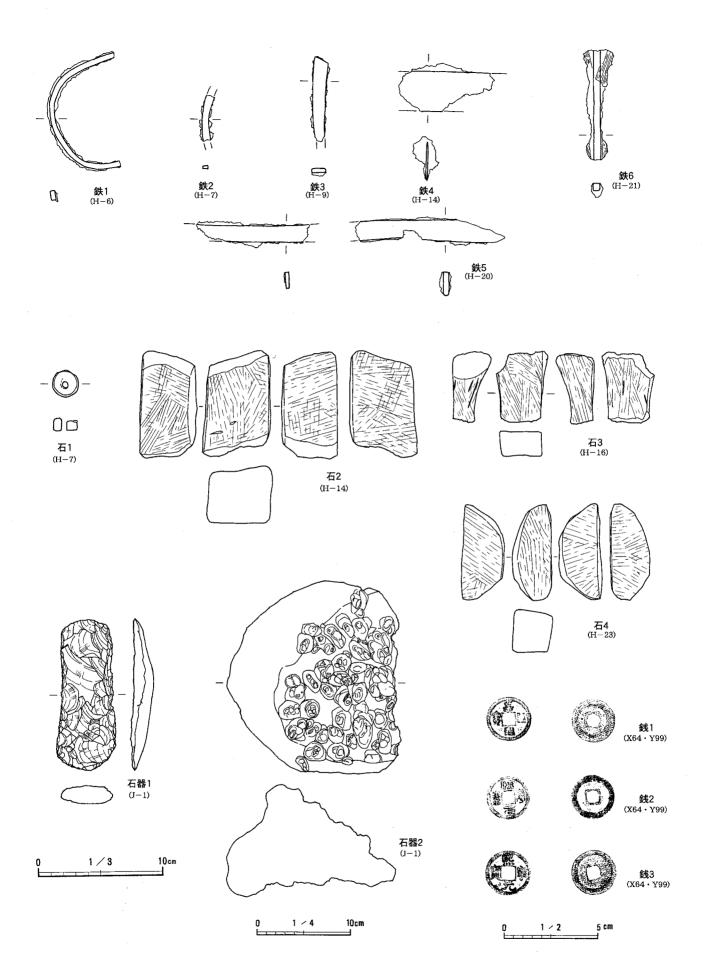


Fig.34 W-1号溝跡、グリッド出土の遺物



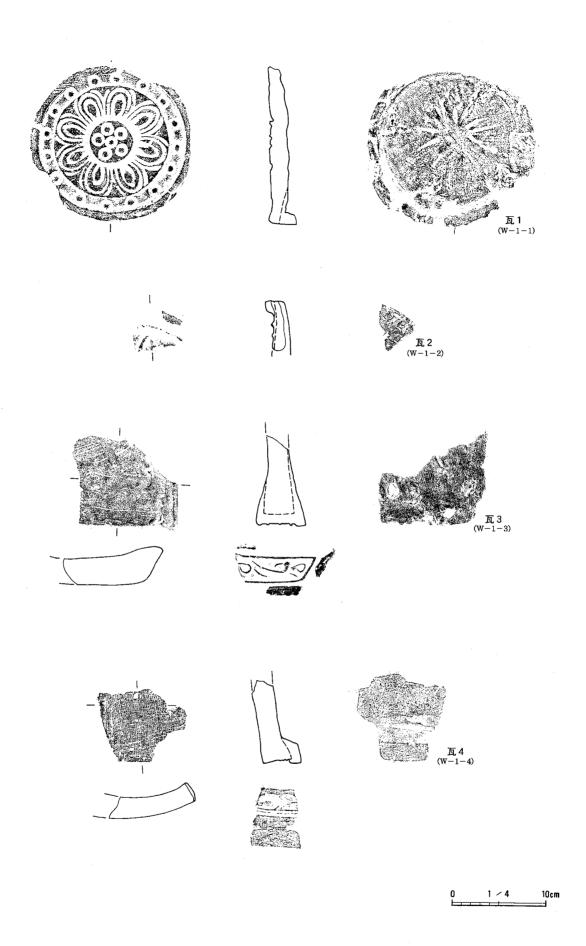


Fig.36 瓦(1)

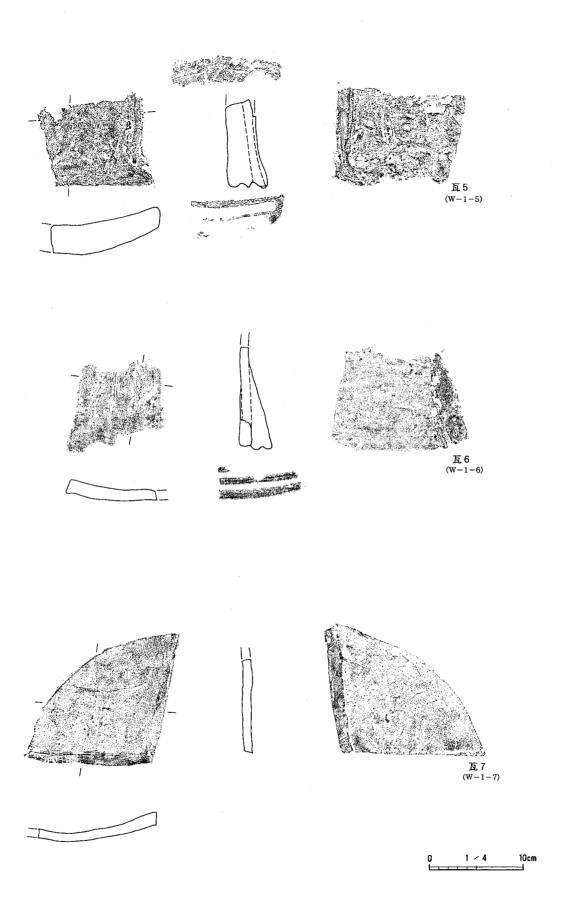


Fig.37 瓦(2)

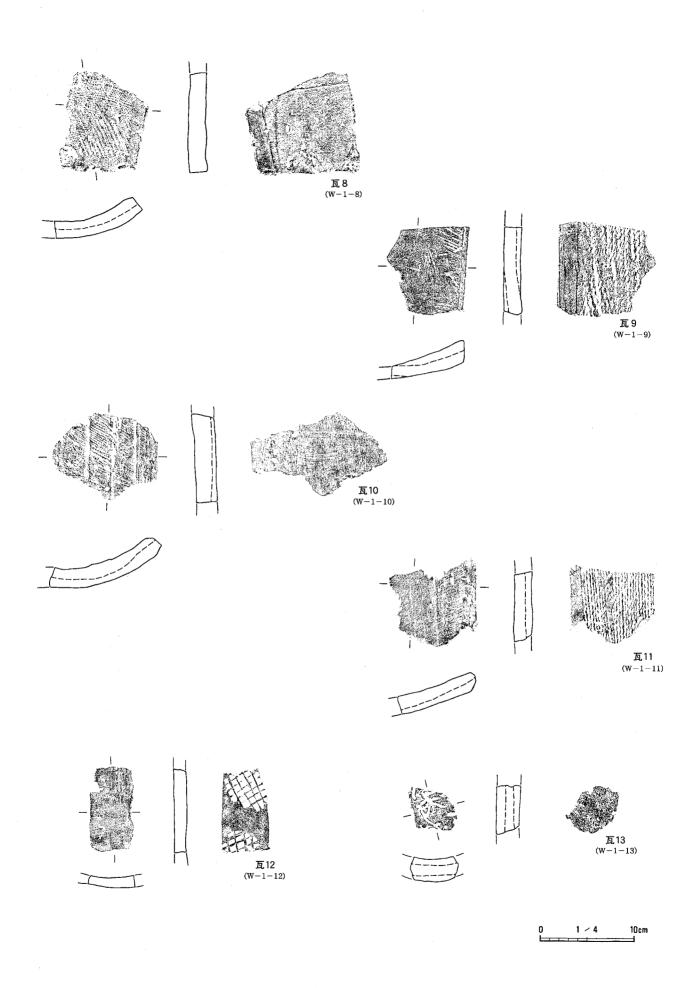
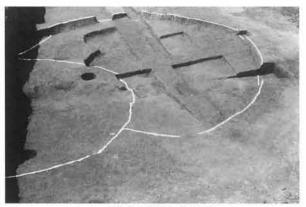


Fig.38 瓦(3)



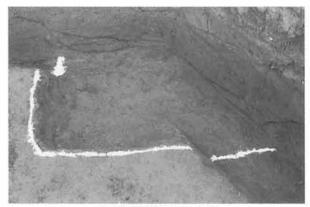
調査区全景(南から)



J-1・2号住居跡全景 (東から)



H-2・3・4号住居跡全景 (西から)



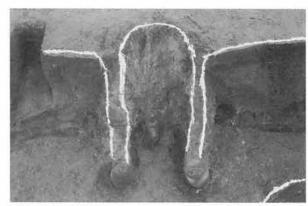
H-1号住居跡全景 (南から)



H-5号住居跡全景(南から)



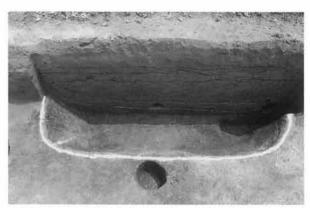
H-6号住居跡全景 (西から)



H-6号住居跡竈全景 (西から)



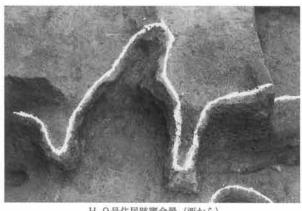
H-7号住居跡全景 (西から)



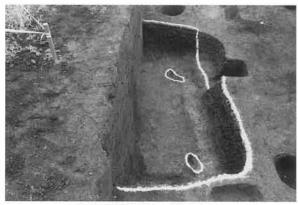
H-8号住居跡全景(北から)



H-9号住居跡全景 (西から)



H-9号住居跡竈全景 (西から)



H-10号住居跡全景 (西から)



H-10号住居跡遺物出土状況 (西から)



調査区中央部住居跡重複状況 (南から)



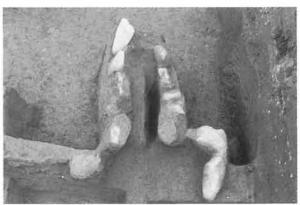
H-11号住居跡全景 (西から)



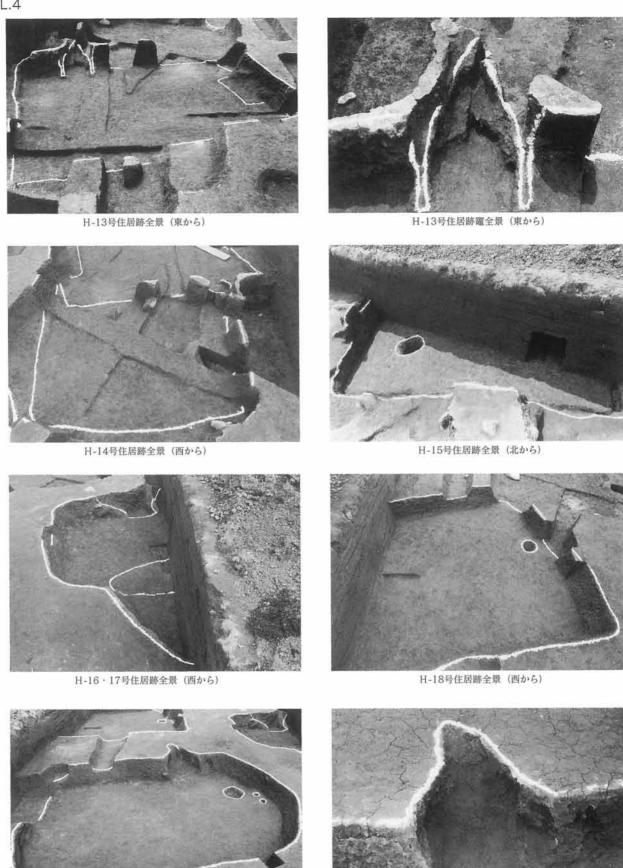
H-11号住居跡竈全景 (西から)



H-12号住居跡全景 (西から)



H-12号住居跡竈全景 (西から)



H-19号住居全景 (西から)

H-19号住居跡竈全景 (西から)



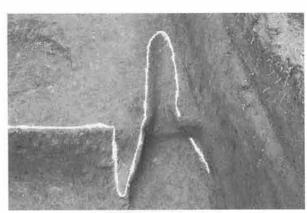
H-19号住居跡遺物出土状況① (南から)



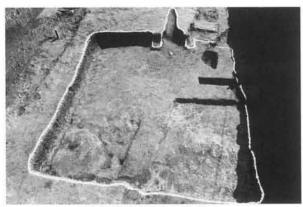
H-19号住居跡遺物出土状況② (西から)



H-20号住居跡全景 (西から)



H-20号住居跡竈全景 (西から)



H-21号住居跡全景 (西から)



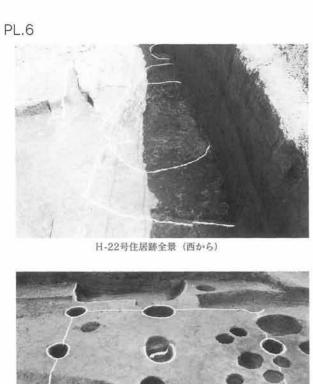
H-21号住居跡竈全景 (西から)



H-21号住居跡遺物出土状況① (西から)



H-21号住居跡遺物出土状況② (西から)



B-1号掘立柱建物跡全景 (南から)



W-1号溝跡西側全景 (南から)



W-1号溝跡遺物出土状況 (南から)



H-23号住居跡全景 (西から)



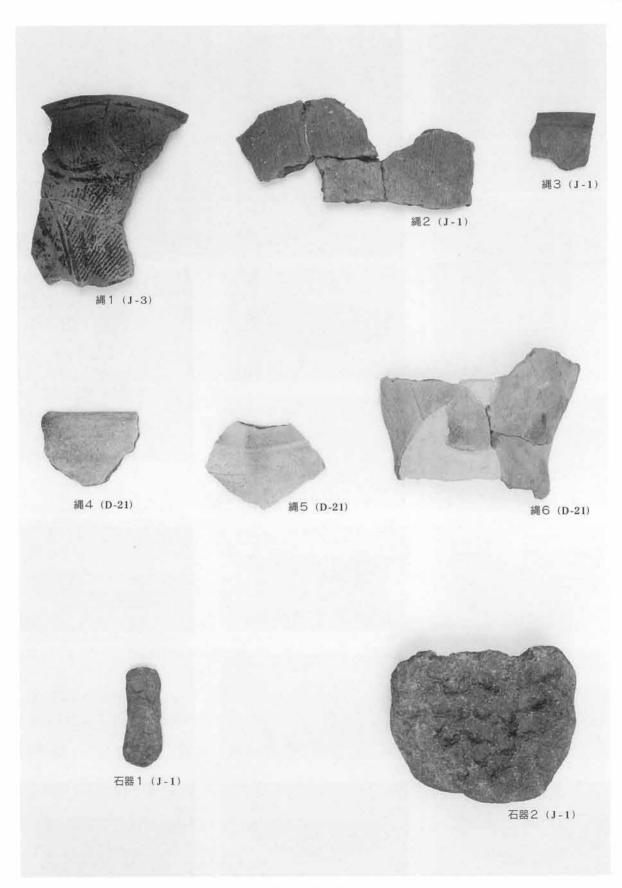
D-18号土坑セクション (東から)



W-1号溝跡東側全景 (南から)

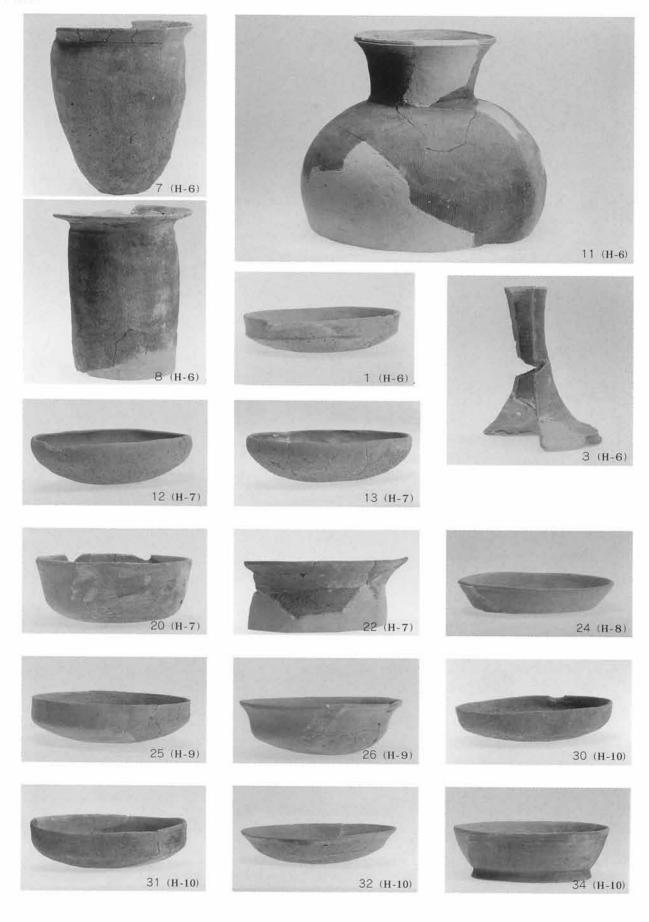


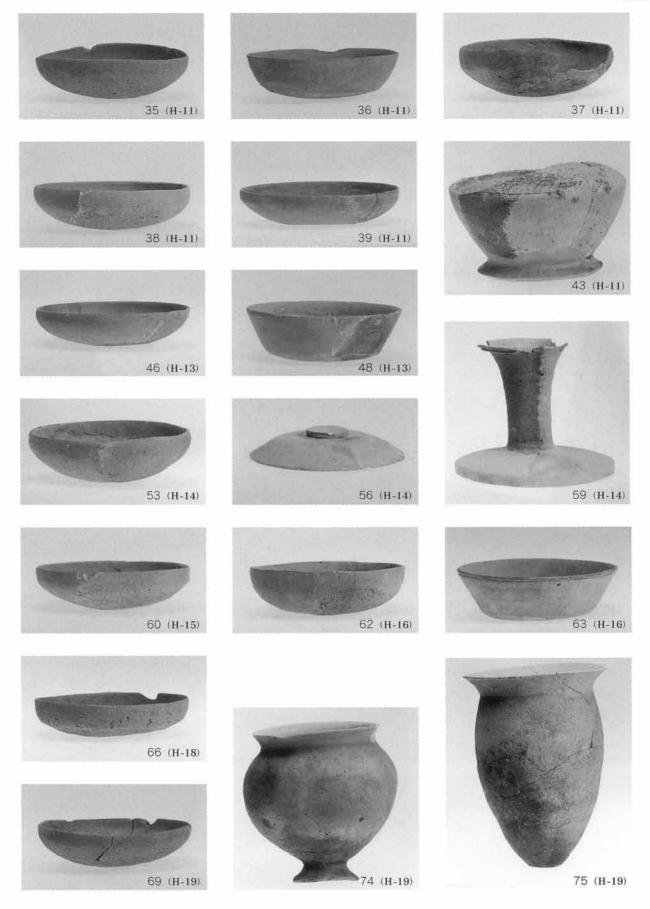
W-4号溝跡全景 (東から)



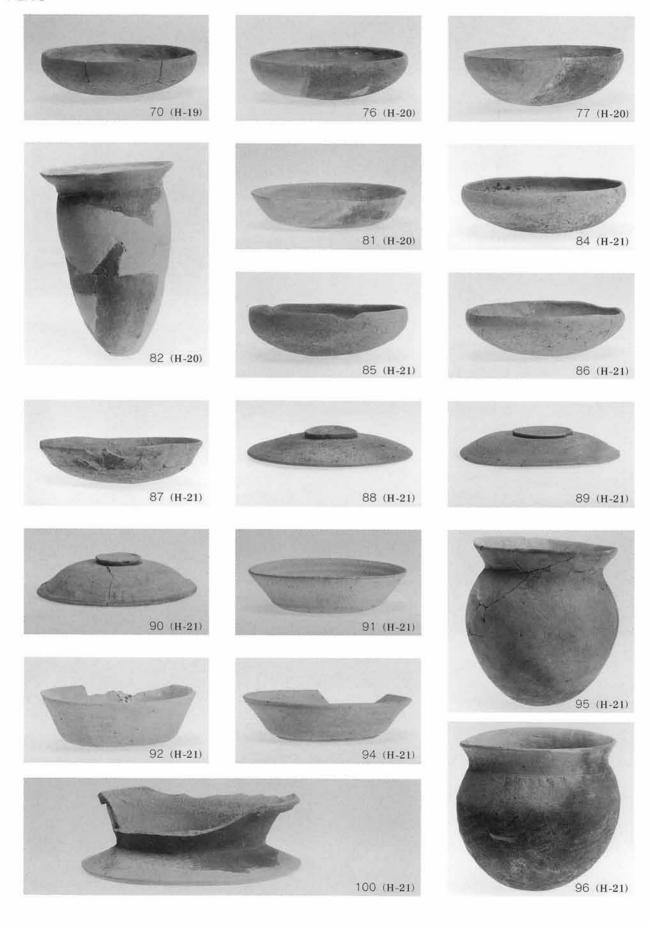
縄文土器・石器

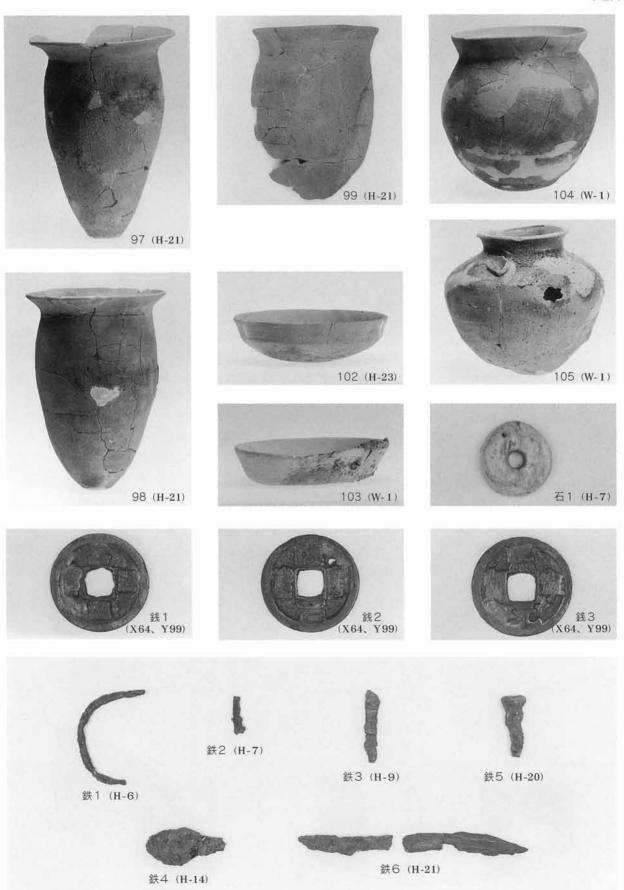
PL.8



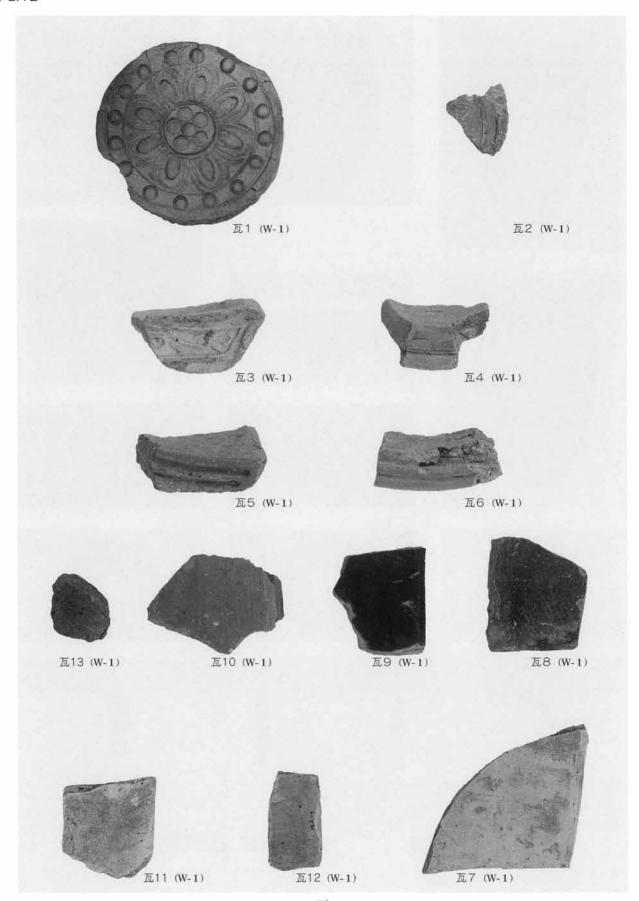


PL.10





鉄器・鉄製品



## 抄 録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン モトソウジャオミウチナナイセキ
書 名	元総社蒼海遺跡群 元総社小見内VII遺跡
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	近藤雅順 • 稲垣慎太郎
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2004年3月18日

フリ	ガナ	フリガナ	コ	— <b></b>		位	置		調査期間	調査面積	調査原因
所収	遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北	緯	東	経	神 王 舟 刊	洲 且 山 但	<b></b> 例且
*	* s offtt 小見内VII	ずがき きりソウジャ 前橋市元総社 ず	10201	15 A 119	36°23	3′36″	139°0	1′44″	20030519	1,093m²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物	特記事項
	縄文時代	竪穴住居跡2軒、土坑1基 他	縄文土器、打製石斧、多 孔石 等		
一元総社小見内VII 遺跡	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡 1棟、溝跡2条、土坑1基 他		なし
		中世以降	溝跡、畠跡、土坑墓 他	古銭 等	

## 元総社蒼海遺跡群 元総社小見内VII遺跡

2004年3月11日 印 刷 2004年3月18日 発 行

> 編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 前橋市三俣町二丁目10-2 TEL 027-231-9531

印刷 所 朝日印刷工業株式会社

